

議 事 日 程 (第 2 号)

平成28年12月26日 (月) 午前10時開議

日程第 1

一般質問

- | 質問順序 |     |    |    |
|------|-----|----|----|
| 1.   | 13番 | 島田 | 正次 |
| 2.   | 9番  | 加藤 | 弘己 |
| 3.   | 16番 | 中村 | 博行 |
| 4.   | 6番  | 佐原 | 佳美 |
| 5.   | 4番  | 高柳 | 達弥 |
| 6.   | 8番  | 吉田 | 建二 |
| 7.   | 5番  | 楠  | 浩幸 |
| 8.   | 11番 | 荻野 | 利明 |
| 9.   | 7番  | 渡辺 | 貢  |
| 10.  | 10番 | 竹内 | 祐子 |
| 11.  | 12番 | 豊田 | 一仁 |
| 12.  | 1番  | 福永 | 桂子 |

- 本日の会議に付した事件……………議事日程に掲げた事件に同じ
- 出席及び欠席議員……………出席表のとおり
- 説明のため出席した者……………出席表のとおり
- 職務のため議場に出席した事務局職員……………出席表のとおり

午前10時00分 開議

○議長（二橋益良） ただいまの出席議員は18名であります。定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

ここで御報告いたします。本日、撮影を許可した者に許可証を交付しておりますので、御報告いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでございます。

○議長（二橋益良） 日程第1 一般質問を行います。

今回、12名の議員の一般質問を通告されております。本日の質問順序は、受付順により、1番、島田正次君、2番、加藤弘己君、3番、中村博行君、4番、佐原佳美さん、5番、高柳達弥君、6番、吉田建二君、7番、楠 浩幸君、8番、荻野利明君、9番、渡辺 貢君、10番、竹内祐子さん、11番、豊田一仁君、12番、福永桂子さんと決定いたします。

初めに、13番 島田正次君の発言を許します。それでは13番 島田正次君。

〔13番 島田正次登壇〕

○13番（島田正次） 13番 島田正次です。市長の所信に対する一般質問を行います。

市長選挙において御当選され、12月6日をもって影山新市長として就任され、新しく湖西市運営の長として着任されたことを感謝申し上げます。世界もグローバル化し、予測の難しい経済市場にも増して我が国の経済もバブル期を境に減少傾向になり、経済成長どころか世界水準から離れそうな時代を迎え、少子化・高齢化といったマイナススパイラルに向かって変動しつつあります。ましてや地方自治体においてもインフラ整備の再構築の時期を迎え、湖西市にとっても厳しい時代へと突入し、特に財政運営は困難をきわめるに至ることであると思います。よって、影山市政にとっては多難な運営を担わなければならない状況であり、その手腕が重要であり、真価が問われることでしょう。

さて、本議会の初日に初の所信表明で多くの抱負を述べられたことについて質問させていただきます。

いいですか、議長。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○13番（島田正次） 1の質問をします。子育て・教育への支援による幸福度日本一のまちを提唱され、将来に向けた次世代の育成こそ、今後の湖西市まちづくりには欠かせない重要課題であります。

市長は少年野球の指導者として、またみずから野球を通して将来の子供たちを育成した経験を生かし、次世代に託した夢は多くあると思います。今、湖西市では出産の施設がありません。何といたってもこのまちで生まれ育つというのが原点であり、そのためにも産科医の確保と出産施設は必要条件であります。どのようにお考えか、お聞きします。

○議長（二橋益良） 市長。登壇して答弁をお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

ただいま島田議員おっしゃるとおり、私も少年野球の指導者をしております。そして次世代の育成、これはすごく最重要な課題の一つであると強く認識しております。

その中で、湖西病院への産婦人科医師の増員、今、湖西病院が湖西の市立病院でありますので、これにつきましては前市長のときから浜松医科大学等々に伺いながら派遣をお願いしたところというふう聞いております。ただし、やはり産婦人科の勤務医の方々の勤務環境の改善に向けた分娩の取り扱い病院を集約化、また大規模化、及び交代勤務制を推進するという日本産婦人科学会の方針もありまして、これまで実現には残念ながら至っておりません。

しかしながら、市民の皆様の要望も強いと私もこれまですごく実感をしているところでございます。私としてもこれから浜松医大初め関係機関に積極的に働きかけて、産婦人科の医師の派遣をお願いしてまいりたいというふうに考えております。

また、平成28年度からは産婦人科医院の誘致助成事業というものを立ち上げまして、情報提供、関係機関への要望などの周知に努めているところでございますけれども、まだ誘致には現状として至っておりません。これに関しても今後も引き続き関係機関

への働きかけ、周知に努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 島田正次君。

○13番（島田正次） そのように頑張ってください。

2の質問に行きます、議長、いいですか。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○13番（島田正次） 線引き見直しについて、どうしても都市計画法に縛りがあります。湖西市にとっても悩める問題であります。しかし、線引き見直しや線引き廃止を行った事例は幾つか都市機能の集約化に向け、国では指針を述べていますが、湖西市のように旧町村から合併し幾つかの集落が点存し、都市計画を施行したため、市街化の条件がそぐわない状況をどう打開するかが重要課題であります。

都市計画の整合性をにらみながら、どのように進めるべきかお聞きします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今議員おっしゃったとおり、線引きの見直しにつきましては、昼夜間人口の差を解消する、そして人口減少に歯どめをかける、そのための方策の一つでありまして、市街化区域と調整区域の範囲を見直し、市街化区域を拡大するものでございます。

これまでも先達の方々がさまざまな手法を検討してこられて、そして取り組んでこられました。ただ、難しい課題と認識をしております、これからどのように見直すのが効果的なのか、湖西市のためにどういった実現方策が必要となるのかというものをしっかりと検討して、議員のおっしゃる都市計画法の趣旨も十分に含んだ上で人口減少に歯どめをかけるように努めてまいりたいと思っております。

この12月の議会の初日でしたけれども、神谷副議長からもいただきました「急がば回れ」「せいては事をし損じる」といったようなお言葉を肝に銘じて、じっくりと腰を据えて取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（二橋益良） 13番 島田正次君。

○13番（島田正次） 頑張ってください。

3に行きます。湖西病院は公立病院のために、民

間と異なり、本質には住民サービスを原点としており、制度性に市財政の負担も法的にある中、いかに市民の医療のよりどころとして存在するかが問われることだと思えます。

医師確保と経営についてどのように進めていくか、お聞きします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

先ほどの産婦人科医師のところでも少し出てまいりましたけれども、湖西病院、市立病院でもありませんので、この湖西病院の経営の改善のためには、お医者さん、医師・看護師を確保し、できるだけ湖西病院で完治するまで診療ができるようにすること、さらには東の病棟、これから再開しまして、医業の収益を増加させること、これが必要だというふうに考えております。

また、お医者さん、医師の確保につきましては、先ほどの産婦人科の件でも申し上げたとおりでございますけれども、浜松医科大学等々関係機関に積極的に出向きまして、湖西病院の派遣を強くお願いをしていきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 13番 島田正次君。

○13番（島田正次） 医師の確保として、浜松医科大学等の働きかけは。

○議長（二橋益良） 関連ですか。

○13番（島田正次） 済みません。再質問です。いいですか。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○13番（島田正次） 医師の確保として、浜松医大等への働きかけはどうですか。また、確保について、可能性はどうですか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） 先ほども申し上げましたけれども、やはり湖西病院の医師の確保につきましては、浜松医大さんにしっかりと働きかけをしていくことが重要だと考えておりますので、これからも足しげく、そして繰り返し通ってお願いをしていく。これが重要だと思っておりますし、可能性につきましてもやはり私も就任間もないものですから、これから引き続き強く積極的に取り組んでいきたいというふ

うに考えておるところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 13番 島田正次君。

○13番（島田正次） たまたま衆議院議員の城内代議士が浜松医大の大学長と親しいそうです。そういう人脈を使って、どんどん陳情に行ったらいいと思います。

議長、4番目行きます。

○議長（二橋益良） では4番目の質問をお願いします。

○13番（島田正次） 防災施設の整備計画と市民の命を守るための考え方はどうか、であります。まず最短で5分以内に避難施設や高台に避難できる対策が必要であると考えます。市長のお考えをお聞きます。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

防災関連につきましても、これも市民の命を守るため、非常に重要な課題の一つであるというふうに認識をしているところでございます。

静岡県の第4次地震被害想定公表によりますと、南海トラフ巨大地震によって、湖西市、最大で死者数5,000人のうち4,300人が津波によるというふうに想定をされているところでございます。

御案内のとおり、静岡モデルの推進検討会中間報告にて、減衰をさせる対策、逃げる対策というものが津波に関しては検討されておりまして、公表されているところでありますけれども、湖西市においては逃げる対策ということで、津波避難施設空白域の解消を最優先の事業と捉えまして推進しているところであります。

現在の津波避難施設の空白域解消率は38%ですが、平成29年度、来年度末までに住吉の命山の完成、そして日ヶ崎地区の津波避難タワーの整備計画によりまして、93%の解消を予定しているところでございます。さらに引き続き、西浜名地区の津波避難施設計画を具現化しまして、平成32年度までには津波避難施設空白域ゼロを目標に進めてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 島田正次君。

○13番（島田正次） 大変ですけど、頑張ってくだ

さい。

5番目行っていいですか。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○13番（島田正次） 広域幹線道路整備や広域連携に向けた近隣自治体、県、国との調整をどのような観点から行っていくか、お聞きます。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

広域幹線道路のような、やはり地域と地域、地域間を結ぶような事業につきましては、県それから市など関係する自治体、関係団体がお互いに情報の共有を図りまして、地域が一枚岩となって産業や観光、防災等の施策の発展に結びつけていくことが重要というふうに考えております。

私としましても、これまでの財務省での勤務経験、そして人脈等々を最大限に活用しまして、関係の自治体や団体などとともに、この湖西市を含めた三遠地域全体のために、みずからの足で国等に働きかけを積極的に行いたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（二橋益良） 島田正次君。

○13番（島田正次） 再質問ですけど、浜松三ヶ日・豊橋道路整備はいかがでしょうか。

それと議員団の陳情等に同席する必要性はどうでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

広域幹線道路整備のうちに、今議員御指摘のございました浜松三ヶ日・豊橋道路につきましては、現在、湖西市は浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会に加盟をしております、浜松市、豊橋市、田原市など関係する自治体や関係団体とともに、国などに対して早期実現のための要望活動を行っているところでございます。

自分としても実現のための活動を積極的に行っていきたいと考えておりますので、今御発言の中にございました議員の皆様との同席、それからいろいろな可能性、そしてそれはもうこの道路の実現に資することでありましたら、それは前向きに、積極的に行いたいというふうに考えておるところでございます。

す。

○議長（二橋益良） 島田正次君。

○13番（島田正次） よろしくお願ひします。再質問かな、これも。

国、県との調整において、私たち、国に対する要望活動を27年度は2回、そして平成28年9月には財務省OBの、ここは影山さんと言わせてもらいます、まだ市長になる前ですので、影山さんにも同行を依頼し陳情活動をしてきました。100%近くの要望が通りました。その結果に対し、インターネット上で誹謗中傷を受けました。皆さん議員も、誰やったかはようおわかりだと思いますけど、名前は言いません。言いたいぐらいです。議員も資料作成等に取り組みましたが、影山市長さんの対財務省への折衝方法、要望内容の切磋など、大いに参考になるアドバイスを受け、成就したものであります。

補助金をたくさんつけてもらうということに批判的な方も見受けられますが、補助金依存度だけを高めようとしているではありません。地域の活性化には地域の生産力を高め、経済を再生しなければなりません。地域経済が強さを持っていなければなりません。民間の力が必要不可欠ですが、さまざまな適切な公的支援も重要であると考えています。そして官民連携し、お互いのノウハウを市民サービスに生かし、湖西市を黒字化にもっていかなければなりません。長々話しましたが、議長、6番行きます。

○議長（二橋益良） 答弁よろしいですか。

○13番（島田正次） ありますか。じゃあ、やりましょう。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の島田議員からは本当に激励のお言葉と受けとめさせていただきまして、9月でしたか、私はそのときはこういった立場ではありませんでしたけれども、財務省初め各省庁、関係機関に要望に行ったのはよく覚えております。もちろん、湖西市として全ての政策を自前の財源で賄えるのが最良の方策ですが、なかなかそれは現実的に財政事情も厳しい。これは認識は共有されているというふうに思いますので、国、その他補助金等とも活用しながら、

湖西市のために何が必要なのか、何ができるのか、そういったことを考えて行ってまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひいろんなアドバイスは引き続きお願ひしたいというふうに思います。以上です。

○議長（二橋益良） 島田正次君。

○13番（島田正次） 先走ってしまいました。済みません。いいですか、議長。

○議長（二橋益良） はい。

○13番（島田正次） 6の最後の質問に行きます。

市民との対話がまちづくりの原点と考えますが、どのような方針で臨まれるか、お聞きします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、御指摘いただいたとおり、市民との対話については、これは島田議員を初め、ほかの多くの議員の皆様からもいただいております、御関心の高い事項であるというふうに承知しております。

私もこの市長に就任する以前から市内の企業だとか各種団体の皆様が主催するイベント等々に積極的に参加をさせていただきました。そして多方面で活躍をする皆様から貴重な御意見、御要望等々、多数頂戴しております。市長就任後には、そういった御意見の中で政策に反映できるというふうに考えたものにつきましては、関係部署に向向いて、今、市役所の中でも実践するためのヒアリングを行っているというところでございます。

こういったように、まずは自分の足とか耳で市民の皆様からお声を頂戴して協議を重ねていく、実現に向けて何ができるのかを考えていくということがまちづくりの原点であるというふうに考えておりますので、今後ともそういったお声を頂戴しながら、市民の皆様とともにまちづくりを行っていきたいと考えております。

○議長（二橋益良） 島田正次君。

○13番（島田正次） 再質問です。お願ひします。

各地での市長と語る会など開催はどうですか。あくまでも懇談会でありますので、要望は極力制限し、お互いの理解を深め、市民とともにまちづくりを行う姿勢が必要であります。前向きにお考えください。

先ほど市民との対話が原点であると申し上げました。一つアドバイスですが、公約について、市長にはいろいろと考えや理想はあるでしょうが、職員にもよい考えを持った人がいます。とにかく対話すること、聞く耳を持つことを心がけてほしいと思います。例えば廊下での気軽な声かけ、時には職員の席まで行って話をするとか、職員の意見をたくさん聞くようにしたほうがいいと思いますので、ぜひ実行してください。

市民に信頼される市長に成長されることをお祈りしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） 以上で、13番 島田正次君の一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 次に9番 加藤弘己君の発言を許します。それでは9番 加藤弘己君。

〔9番 加藤弘己登壇〕

○9番（加藤弘己） 9番 加藤弘己でございます。通告に従いまして質問に入らせていただきますが、質問の背景や経緯は先輩議員がいろいろお話しされましたので省略して、質問の目的のほうから入らせていただきます。

質問の目的でございますが、人口減少時代にあっても生産性を高め、文化性を高めることに成功し、的確な戦略・計画・目標達成をし、住みやすい、働きやすい、活気のあるまちづくりを実践しようとする市長の所信表明について質問するものであります。

それでは質問に入らせていただきます。

早急な建設に向け取り組むとした市民会館を初めとする公共施設の今後のマネジメント方針について、先ほどの答弁に官民連携という話がありましたけど、少し関連しますので、私も質問させていただきます。

従来の行政主導の管理体制から、民間発案・官民連携による施設管理へと発展させていく考えはあるか。そして明確なビジョンがあれば伺いたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してをお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

公共施設のマネジメントにつきましては、平成28年3月に策定の湖西市公共施設等総合管理計画の公共施設マネジメント基本方針、運営の適正化というところの中で、公共建築物を経営資産と捉えまして、従来の施設管理から効率的かつ効果的な施設の運営に改善していくこととしております。

建設計画の段階におきまして、民間代替の可能性の調査を行うことを一つの条件とした上で、民間の資金やノウハウを積極的に活用しまして、より効果的な施設運営を推進していきたいと考えております。

また、公共建築物の運営の無駄を省き、民間委託を含めた適正な人員で効率的・効果的な施設運営を行うことを考慮してまいりたいと考えております。

○議長（二橋益良） 9番 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） ありがとうございます。ぜひ今の答弁を具体化させるようお願いしたいと思います。

それから市長、市民会館を複合施設化とすると、具体的な整備計画を作成しているのか、そこら辺、想定案がありましたら、ぜひお聞かせ願いたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、議員おっしゃったとおり、市民会館、複合化するというところで、今、複合化をする建物や整備の計画につきましては、例えば市民会館以外のほかの公共施設との複合であるとか、民間施設との複合といった形式が考えられるところでもあります。ただ、これの両方の案につきましては、今、検討を始めたところでもありますので、現時点で何か発表できるという段階ではありませんけれども、固まってきた段階で、また改めてしっかりと御説明、発表させていただきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） そうですね、やはりまだ今、地についたところでございますので、今後しっかりと検討していただきたいと思います。

それから、市民会館はもういろいろなこと考えてたら長い年月がかかります。それで、市民会館は欲張らなくても、地盤がよい高台で、音響効果がよく、

すばらしいピアノがあります。そして、広く歌手だとか演奏家が湖西のホールで歌い、演奏したいというような、小さくても特徴のある施設を構築する。そういうようなお考えはないでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、加藤議員の御指摘のとおり、施設の考え方のところはかなり共感できるという部分もございます。ただやはり先ほどの答弁でもさせていただきましたけれども、施設の規模そして内容といったものは今計画の検討を行っているところでありますので、現段階では本当に貴重な御意見として参考にさせていただきます、やはり市民の皆様喜んでいただけるような市民会館、そういった複合施設の可能性を含めて、しっかりと検討、そして計画を行っていききたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） ありがとうございます。ぜひ市民の考えを大切をお願いしたいと思います。

それから、もう少しコスト意識が大切です。市民会館ができた場合、無償で人を呼んだり動員をかけて聴衆を集め、セミナーを開催し、費用を集めて、行政の負担となるような計画からコスト意識を変えて、使った費用以上のリターンをすることで地域活性化につながるようなお考えはないでしょうか。よろしくをお願いします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） これは今、加藤議員おっしゃるとおりだと私も考えておまして、行政が主導の管理体制といいますか、行政の主導の体制から民間の発案や官民の連携による施設管理と発展させていく。そのためにはやはり受益者の応分の負担も必要だというふうに考えております。ほかの施設も含めまして、やはり今後、受益者負担のあり方をしっかりとこれも含めて検討しまして、地域の活性化につながるような施設、そして運営につながればすばらしいことであるというふうに考えておりますので、そのように推進していききたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） ありがとうございます。行政はもとより民間の変化もこれは非常に重要です。変化を伴う事業は大変でなかなか受け入れがたいものですが、官民がコスト等問題意識を持って、地域活性化に取り組んでいきたいものでございます。

やはり現在、財政状況から見れば、全ての要求に応えることは難しく、膨大な要求の中から何をを選んで何を諦めていくということは、市長、非常にこれは大事なことです。市長の、ぜひ力を発揮して、ますますいい湖西市にしていきたいと思います。

では次の質問に移ります。

5つの旗、産業の振興によるエネルギッシュなまちの中で、浜名湖や湖西連峰、新居の関所など豊かな観光資源を活用・PRし、国内外の観光客を誘致しますとありますが、具体的な方策をお聞きます。よろしくをお願いします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

湖西市内の観光資源の有効活用、そしてPRの方策といたしましては、現在ある新居の関所や豊田佐吉記念館、ほかにも海湖館や道の駅の潮見坂等々、観光文化施設を中心に観光のパフレットを配布したり、ウェブサイトで情報発信を今行っているところでございます。また浜名湖の観光圏といたしましても、浜松市や民間事業者の方々と連携しまして、サイクリングや浜名湖の舟運、農業体験など、各種の体験メニューによって浜名湖と湖西市の魅力を掘り起こして、そしてPRをしていくということを計画しているところでございます。

具体的な例としましては、浜名湖の一周サイクリングでの統一の看板の設置、情報発信の手法としましてはSNSを活用した動画でのPR、こういったことを行っていきます。また、Wi-Fiの利用環境を整備促進したりとか、新たな観光資源の開発、こういった民間事業者等々との連携を強化しまして、観光資源の活用・PRを進めて、湖西市がもっともっと魅力あるというふうなことを発信していきたいと考えております。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番(加藤弘己) 今、市長の答弁を聞きまして、やはり湖西の特徴を生かした観光等をお聞かせいただきましたので、これはもっとしっかりやらないかんじゃないかなという感じを受けました。

元気のいい観光地、例えば伊勢のおかげ横丁とか長浜市の黒壁スクエア、高松市の丸亀商店街などは、本当に人が集まって特徴的なことをやっています。これをまねするというわけにはいきませんが、ぜひこういうようなことも参考にしていききたいなと思っています。

それから、去る20日に岐阜県海津市のお千代保稲荷というところに、これは友好を兼ねて勉強に参りまして、行ってきました。やはり平日にもかかわらず多くの人で活気がみなぎっておりました。やはりこれもほかのまちにない試みをいろいろやられてるというようなことで、参考にしなくてはいかんなどというふうに思って帰ってきた次第でございます。

湖西市が行きたくなる場所、遊びに行きたくなる場所、人を引きつけ、そして住んでみたくなるようなまちにするため、観光の力というのは大事なものだと思っています。もちろん、産業だとかいろいろなこともあります。しかし観光も大事ですので、ぜひこういうような考えをお持ちだったら、市長の感想、それから意見をお願いしたいと思います。

○議長(二橋益良) 市長。

○市長(影山剛士) お答え申し上げます。

今加藤議員おっしゃるとおり、観光への取り組み、私もおかげ横丁等々訪れたことありますけれども、やはりすごく活気を感じました。観光への湖西市としても取り組みとしてやはり一度、まずは湖西市に訪れていただく。そして一度訪れた方がリピーターとなって、二度三度と訪れていただけるような仕組みをつくること、これが重要だというふうに考えております。

例えば、今の加藤議員の例にもありましたけれども、さらに例えば北海道のパウダースノーに憧れて、オーストラリア人が毎年北海道に訪れるという話も聞いております。こういった例えば北海道のパウダースノーのような素材が湖西市では何に当たるのか、市内各所から見られるような浜名湖のすばらしい、

例えば景色であるとか、これからカキの季節ですけれども、プリ丸といった食材、そういった市内の特産品を生かすことができる、そういったことを考えていきたいというふうにおりまして、例えばよくあるB-1グランプリに何を湖西市としては出店できるのか、そういったことも含めて検討を行っていかとか、名物名産品のPRを積極的に行っていく。そのためにはやはり観光に携わる方々だけではなくて、関係する地域の住民の方々、いろんなお知恵やアイデアを拝借しながら一緒に進めていきたい。例えば商工会の方々であるとか、JC、観光協会、地元企業のの方々、いろんな、そこはオール湖西、市議の皆さんも含めまして、いろんなアイデアを、お知恵をいただきながら進めていきたいと考えているところでございます。

○議長(二橋益良) 加藤弘己君。

○9番(加藤弘己) ありがとうございます。やはり観光により、地域が元気になるという、行きたくなる場所、行きたい場所であり続けるようなお話がありましたので、非常に元気が出てきたような感じでございます。ぜひ、それを実践していただきたいと思っております。

それでは3番目の質問に移らせていただきます。

所信表明で挙げた5つの旗の遂行には、市民や関係団体の理解・協力が不可欠であります。市長のお話しされました対話と行動の姿勢について、どのように市民・関係団体との信頼関係を築いていくのか。これは先輩議員のお話にも少しありましたが、ぜひ突っ込んでお話をいただけたらと思います。

○議長(二橋益良) 市長。

○市長(影山剛士) お答え申し上げます。

先ほどの答弁の中にも少し出てまいりましたけれども、対話にはさまざまな手法がありますけれども、やはり私としても膝と膝をつき合わせて、直接対面してお話をする。お互いの顔が見える関係で、より身近に感じることができる信頼関係が生まれてくるためには、それが必要だというふうに考えております。

先ほど少し島田議員の御発言、御質問の中にもありましたけれども、市民との懇談会ということで、



自治会を初め市民の皆様とそういった懇談の場を設けることを予定しております、来年2月を今日程としては予定してはありますが、直接市民の皆様、関係者の皆様と対話することで、情報を共有しながらまちづくりを推進してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） ありがとうございます。やはり膝と膝を交えてやるというようなことはすばらしいことだと思います。

しかし現在、現況を見てみますと、地域の活性化、コミュニティについて必ずしもうまくいっているとは思えません。また近ごろの特徴でありますインターネットの定着により、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションが減る傾向にあります。市民・職員・政財界との信頼できる人間関係について、このインターネットも絡めて人間関係の構築について、先ほどお話があったんですけど、再度お話をお願いしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、加藤議員おっしゃるとおり、やはりインターネットが発展している現在、例えばフェイスブックとかツイッターのようないろんなSNSツールは発展して、コミュニケーションはそういった方策もふえております。

ただ、やはりそういったものは例えば距離が離れていてなかなか会えない方だとか、自分の自由な時間というか好きな時間に見ることができても、やはり基本は膝と膝、顔と顔をつき合わせて対話をする。そういったことが基本だというふうに思っております。今、加藤議員からあったフェイス・トゥ・フェイス、これを基本としまして、市民の皆様、やはりSNSを市民の皆様全員が使用しているわけではないというふうに思いますので、基本はフェイス・トゥ・フェイスで対話を重ねていく。これが重要だというふうに考えているところでございます。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） ありがとうございます。やはり地域の人、地域外との相互による信頼関係を構築

するのは、相手と向かい合って話をする。実際に会ってやりとりをする。それから偶然の出会い。多様な人がいる場所に身を置いていくと。こういうようなことでコミュニケーションが深まると思います。

ことはこれらのことを私はこの2月ぐらいから11月ぐらいまで、これらのことを身にしてみても感じ、経験をしました。市長自身はどうでしたか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） 今、加藤議員おっしゃったとおりで、私も今まで、11月に湖西市長の選挙がありましたので、今加藤議員のおっしゃるとおり、例えば直接に市民の方とお話をさせていただく。そして相手の表情や声などを実際に感じ取りながら対話をする。これが非常に重要であるし、一番コミュニケーションの手段としては最善であるというふうに身をもって実感というか、体験をしてきたところでございます。これは今こういった市長に就任後も変わらずに、先ほどの市民との懇談、対話ということもありましたけれども、そういったところを積極的に行ってまいりたいと考えているところでございます。

○議長（二橋益良） 加藤弘己君。

○9番（加藤弘己） ありがとうございます。力強いお言葉で、本当に心強いと思います。

市長には強力なリーダーシップと問題意識を持ち、トップダウンで組織を動かし、ビジョンを示し、コミュニケーションをとってしっかりと伝え、かじ取りをして、この湖西をよくしていただきたいと思っております。これでもって私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） 以上で、9番 加藤弘己君の一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 次に16番 中村博行君の発言を許します。それでは16番 中村博行君。

〔16番 中村博行登壇〕

○16番（中村博行） 議長のお許しが出たので、私は所信表明に対する一般質問を行います。私は、この中の2番の今後にかかわる部分で、湖西病院のことについてだけ伺いたいと思っております。

まずは御当選おめでとうございます。これから実

際の仕事に入って、しゅうと・小じゅうとのおる中で、一人でいろいろ判断していかにかんという事で、いろんなことが今度は判断の仕事になるかと思えます。

それでまず私は、この主題に沿って伺いますが、1番目の医師の確保をどのようにするのかという部分については、一応同僚議員の中からも話が出ましたので、この点については一点確認したい点があるんですが、なぜ、医師の確保が必要なのかということ、やはり必要なことをしっかりとお互いに共有してやっていかないと、行き違いが出てはいかんもんですから、医師の確保はなぜ必要なのかという部分を、済みません、お願いします。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、中村議員からおっしゃっていただいたとおり、なぜ必要なのか。やはり医師の確保、私も必要だと感じておりますけれども、まずはこの湖西病院、市立病院でありますので、この湖西市民の方々を中心に利用されている市民の皆様への医療サービスの向上、やはりここが市民の医療の拠点として安心して医療が、どんな病気でもやはり受診ができる、安心して病気になったときにもかかれる、そういった体制の整備が必要だということ。そして、さらには湖西市立の病院である以上は、医業の収益を増加させて安定的な運営を行っていくこと。それが必要だというふうに考えております。

その上で、医師の確保をどのようにしていくかということでございますけれども、今の湖西病院、常勤の医師、そして非常勤の医師の方々のほとんどが浜松医科大学から派遣をさせていただいてるところです。先ほどの他の議員の質問でも答弁をさせていただいたとおりでございますけれども、浜松医大等々にこれからは積極的に出向きまして、医師の派遣を強くお願いしてまいる所存でございます。また、湖西病院等々のウェブサイトでの募集であるとか、今ある医学の修学資金の利用についても引き続き継続して、医師の確保に努めてまいりたいと考えております。

○議長（二橋益良） 中村博行君。

○16番（中村博行） 再質問ですが、私は、この医師の確保については、こういう問題については予算決算のときに、こういういろんな病院のことを論ずるときには必ず医師の確保が必要だという話は病院のほうから聞こえてきますが、実際に患者が多くて、どうしても医師が足らんもんで欲しいという話は聞いておりません。どういうことかということ、今の現状の医師でも足りているのではないかなど私は思うんです。それで、経営のために医師が欲しいというふうなことが病院のほうからの要望で出てくるのではないかと思うんですが、そういうことでまずは医師の確保は必要だということは私もわかりますけど、もうちょっと現実を見て、やはり判断をしていただきたいということをお願いしたいと思えます。これで終わります。

○議長（二橋益良） 答弁要りませんか。

○16番（中村博行） 答弁、できますか。どうぞ。できたら。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、中村議員おっしゃるとおり、そこは湖西病院のほうとも私連携をよくとって、どの診療のために、そして市民の皆様のやはり需要というか、湖西病院の期待含めて、どういったことが必要で、そのために医者さん、そしてそれ以外にもそうかもしれませんが、まずは今の御質問では、お医者さんの確保がどれぐらい必要であるのか、どういったことの診療のために必要なかということは、病院とよく連携をとって進めていきたいし、余り経営の観点からも悠長なことは言ってられませんので、そこは早目、早目に、病院と連携しながら行っていきたいというふうに考えているところです。

○議長（二橋益良） 中村博行君。

○16番（中村博行） ではそういうことで、経営の改善を目指している部分もあるんだということで理解しましたので、次に行きます。

次に、病院の施設とか整備を充実させるというふうなことで所信表明ありましたけど、どのような形でこのものを充実させるのか、その辺についてひと

つお願いします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

さきの質問にも少し関連してくるかもしれませんが、やはり十分な、湖西病院において患者様、市民の皆様の期待に応えられるような病院とするために、やはり医師の増員をしていく。そして、より専門的な検査や治療が行えるようにしていく。そのためには現在ある施設や設備に加えて、必要なものを充実させて、市民の皆様の御要望にお応えできるような医療の充実、そういったものを行っていきたいということを考えております。

○議長（二橋益良） 中村博行君。

○16番（中村博行） 大まかな概況はわかりますけど、私は個人的には湖西病院についてはやはり頑張っているところと頑張っていないところがあると思うんですよ。それで私は、泌尿器科か何かは頑張っていると。そうするとここにいらっしゃる寺田院長もなかなか資格を持った方で頑張っておられるというふうに思うものですから、こういう頑張っておられるところに何か設備投資をして、そこで稼ぐという方法もあるのではないかなというふうに思っているわけなんですけど、泌尿器科なら、これから年寄りがふえるものですから、よその医大とか聖隷病院ですか、そこでは手術のダビンチという金のかかる機械があるんですけど、そういうものもこれからはやはりみんなが必要としていくものではないかと思うものですから、そういうのもひとつ検討のうちに入れてもらいたいと思いますが、その辺はどうでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、本当に寺田院長のお話出ましたけれども、そういった泌尿器だとか、湖西病院全体で今、湖西病院をよりよくしていくために頑張っているという承知をしておりますけれども、やはり限られた予算であるとか、この財源の中でどういった形が一番市民のために望ましいのか、それはある程度財政等とも連携をしながら、めり張りをつけながら、そして全体として湖西病院、診療がよくなるように、市民の皆様に応えられるような泌尿器科を初め湖西病

院の各施設、そして各課とも連携をとりながら進めさせていただきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 中村博行君。

○16番（中村博行） そういうことでいろいろ検討してもらって、これから私たちにも希望が持てるような形にひとつお願いしたいと思います。

次に3番目の質問に移ります。

湖西病院は、毎年10億円前後の繰り出しをしているのにもかかわらず、3億から4億の赤字を出しているということで、現金預金も枯渇してきている状態ですので、この経営をどのように改善するのか、その辺の方向性をお伺いします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

さきの議員の御質問にもあったかもしれませんが、改めてこういった湖西病院の経営、大変重要な課題であるというふうに認識をしておりますので、やはり経営の改善のために、まずはお医者様、医師や看護師をしっかりと確保する。そして今ある東の病棟を再開することによって、経営を安定させて医業収益をふやしていく。そういったことが必要だと考えておりますので、できることから早急に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 中村博行君。

○16番（中村博行） 頑張ってくれるということで期待をしたいと思いますが、市長になったばかりでこんな質問もいかんかと思いますが、今、湖西病院の再生に向けていろいろ長年で病院を改革しようというプランがあるということは御存じだと思いますが、この中で私は12月8日の日に、一応これを傍聴させてもらいました。その中でいろいろ出てきている問題があるんですけど、大ざっぱに言いますと、これはどちらかというと、今までの前市長が踏襲してきたやり方をそのまま踏襲してるだけだと。市長のこの中に、湖西市政に新しい風を送り込むという形の内容にはなっていないのではないかなと私は感じました。

なぜかといいますと、まず一番重要なことは、市が繰り出して10億円も出しているのに、まだこれからこの計画では10億から12億5,000万出すような毎

年の計画なんですよ。それであるのに、まだ赤字がそれこそやめれないとか、それはとまらないという計画ですので、前の市長と違う方針であれば、やはり市のほうから繰り出したお金の中でやり切るという方向に行かないと、病院は自分自身でそういう赤字の決算をしながら自分の体を自分でその経営が困難になるような形のほうに進んでいるように私はこの計画では見えませんでした。

それで、それをまた、そういったことを管理者もよしとしてると。今まで12年間、前市長がずっと続けてきたその方法を、同じような方法でやってるということです。この点だけはひとつ私は要望と言ってはいかんけど、そういう観点で見てもらったほうが病院のためにも継続ができるし、市民のためにもなるという方法ですので、その辺をやはり市から繰り出した金額の中でやり切るという方法をお願いしたいと思うんですが、その辺の展望はどうですか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今の策定中の改革プランの素案等々については私も今病院との話し合いの中で拝見をさせていただきました。やはり現在策定中ということで、今年度、平成28年度中に策定予定ということになっておりますので、私の考えや今回市民の皆様からいただいたさまざまな要望、そして期待も含めまして、しっかりとそういった御意見を反映させた上で、新しいこの改革プランを策定して、今後の運営方針を示す。そしてそれにのっとって湖西病院がよりよくなっていく。経営も含めて医療体制が整っていく。しっかりと市民の皆様のお期待にお応えできるような、そういった体制をできるような改革プラン、そしてそれを執行、工程を行っていくということを行っていきたく思っております。

○議長（二橋益良） 中村博行君。

○16番（中村博行） 市長の力強いお答えをいただきました。ということで、ぜひとも病院のほうは市から繰り出したお金の範囲内でやるという、やり切った、赤字を出すということが一番病院自身を寿命を縮めてしまうと。再建をする、新しい建物を建て

るとか、病院の全てのお金をそれでもって市が見ないと、もう病院には一切お金がありませんから、そういう覚悟でもって判断をしていただきたいということをお述べまして、私はこれで終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、16番 中村博行君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とさせていただきます。再開は午前11時10分といたします。

午前10時57分 休憩

午前11時10分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

続きまして、6番 佐原佳美さんの発言から進めたいと思います。どうぞ、佐原佳美さん。

〔6番 佐原佳美登壇〕

○6番（佐原佳美） 6番 佐原佳美でございます。市長の所信表明について、お伺いいたします。

まずは影山新市長さん、御就任まことにおめでとうでございます。

質問しようとする背景や経緯ですが、行政キャリアのある青年市長の誕生に期待する市民の皆様の声をたくさんいただいております。選挙戦の中で市長も多くの皆様の要望を聞かれ、当市の課題を目の当たりにされて所信を表明されたと思いますが、より具体的に伺える施策であれば確認や提案をさせていただきたく質問いたします。

質問の目的は、湖西市民の幸福度・満足度の向上の市政実現のためです。

質問事項の1番です。選挙公約で掲げられた5つの旗の内容を実現するために、所要の措置を速やかに講じていかれるとの表明ですが、2つ目の「人口減少に歯どめをかけ、活気あるまちづくり」の中の市民会館建設について、過日静岡新聞に「年度内に大きな絵を描きたい。候補地もできれば示したい。」との市長へのインタビュー記事の掲載がありました。現時点で、発表できる計画はありますでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長、答弁をお願いします。登壇してをお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

先ほどの市民会館についてですけれども、湖西の顔、そして湖西市民の顔である市民会館、これもやはり市民の皆様、多数の方々から御要望をいただいている、期待度も高いというふうに認識をしているところでございます。

現時点で、市民会館機能を有する建物を建設する場合の候補地を今複数箇所検討しているところでございます。ただ、現時点で関係者との協議であるとか事業費の確保、そういった見込みなど、これを固めてからと思っておりますので、こういった諸要件をクリアし次第、発表、公表、明らかにさせていただきたいと考えております。

また、時期につきましても現在の策定作業であります公共施設の再配置基本計画でありますとか、次年度、来年度の策定予定となっております市内の全体の公共施設再配置の個別の計画におきまして、できるだけ早期に目標時期等々につきましても明らかにしてまいりたいというふうに考えるところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 6番 佐原佳美さん、どうですか。

○6番（佐原佳美） ありがとうございます。さきの先輩議員、同僚議員への御答弁の中からも伺うことはできました。了解いたしました。よろしくお願いたします。

次に同じ2つ目の中で、湖西病院について、医師を確保し、救急機能を初め必要な施設・設備を充実させ、経営を改善するとともに、市民の医療の拠点として安心して病院にかかれる体制を整備しますとありますが、市民のために湖西病院の空き病棟の活用、病院の特色づくりに有効な緩和ケア病棟の開設を検討いただきたいが、いかがでしょうか。

今月12月9日の衆議院本会議において、全会一致で可決し成立した改正がん対策基本法、議員立法ですが、ではがん患者の3割が解雇や依願退職で職を失っている現状に対し、治療しながら働き続けられるよう配慮することを事業主に求めることとともに、本人・家族への緩和ケアの強化が打ち出されました。

緩和ケアは、治療後や終末期に行うものと誤解されがちですが、診断された時点から心と体の苦痛を和らげ、前向きに生きる患者の社会生活を支えるものです。2006年のがん対策基本法制定以来、日本のがん対策は大きく前進し、かつての不治の病から、長くつき合う病になったとさえ言われています。家から近い病院で、生活の質の向上に向けた相談支援、つまり温かいサポートを受けながら仕事を続け療養ができることは、市民の願いだと思います。専門人材の育成・登用が必要ですが、休眠状態の病棟活用に、湖西病院の再生の売りにもなる緩和ケア病棟の御検討をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、佐原議員おっしゃる御指摘のとおり、今ある湖西病院の空き病棟につきましては、早急に再開というか活用していかねばならないというふうに認識をしているところです。

今御指摘のありました緩和ケア病棟を開設するために、これは基準といたしまして看護の配置が7対1であることと、患者専用の台所や患者家族の控室などの施設があること、また精神的なケアの必要性が高いために個室を多く用意することなど、さまざまな基準が定められておまして、これら基準を満たすためには看護師の確保や病棟の改修等々が必要となってまいります。

したがって、現段階におきまして緩和ケア病棟開設というのはなかなか難しい状況であるかなというふうに考えておりますけれども、しかしながら今後の例えば診療報酬の改定などなど基準の変更があった場合には、御希望に沿えるようなことができるかどうか検討をしっかりとてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん、どうですか。

○6番（佐原佳美） 湖西市は本当に工業生産の高いという、要はそういう大きな企業の雇用者を抱えるところです。本当に人口を確保するためにも、浜松や豊橋に大きな病院がありますけれども、地元でやはり仕事をしながら通院というの、遠い所へ行くというのは本人にとっても家族にとっても大変

なことなものですから、産科と同じですけども、何とか。必要なものへの投資はいろいろな病院再生の研修に行っても、するべきだというのが多くの講師の見解でした。先ほど中村議員からの発言にもありましたとおり、これまでの流れではなく、本当に必要なところへは必要なチャレンジをしてみるという、投資をしてみるという姿勢でぜひとも臨んでいただきたいと御期待申し上げます。ではよろしくお願いたします。

では3番目のほうへ行かせていただきます。

3つ目の福祉の充実による日本一思いやりのあるまちの在宅医療・在宅介護の体制は、現在、地域医療等対策特別委員会で調査・研究しているところですが、どのように体制整備をされる意向でしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

いわゆる団塊の世代と呼ばれる世代が75歳以上となります平成37年度に向けまして、医療や介護予防、住まい、生活支援が包括的に確保される地域の包括ケアシステムという構築が求められているということは認識をしっかりとしているところです。

本年度、28年度中におきまして医療の関係者及び介護の関係者によります協議会を設置するべく現在準備をしているところございまして、この協議会の中で連携の推進に向けて現状把握や課題の抽出といったものを行い、そして具体的な推進方法、しっかりと検討してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） 私も一般質問でも地域包括ケアシステムの構築については3回ほどさせていただいておりますが、これまでものれんに腕押しのような市長さんのツケが回ってきているという形で、先行して静岡県下の中で他市よりも先に総合支援事業はスタートしているという、一部先進的と思われるところもありますが、ようやく残された3カ月の中で地域の医療介護の事業者を集めた協議会が設置されて、現状課題の把握をしていくということは大きな前進ではありますが、今ですかという思いに駆られているところが本心です。これからはスピード感

をもって、ぜひとも市民の老後のためというか、全ての世代の、湖西市で幸せな生活を送れるための地域包括ケアシステムの構築をよろしくお願いたします。

では4番に行かせていただきます。

4つ目の命を守る防災対策では、浜松市のような防潮堤を計画されていますか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

浜松市、今御指摘ございました浜松市におきましては、300億円余りという多額の寄附によりまして、約17.5キロメートルほどの海岸沿いに海拔13メートルの防潮堤築造を進めているところと聞いております。本市、湖西市におきまして、現時点におきましてはそういった具体的な防潮堤の築造計画はございませんけれども、なるべくこういったことも必要に応じてしっかりとビジョンをつくってまいりたいというふうに考えております。

また、さらに既に御案内のとおりですけども、平成27年3月26日に公表されました静岡モデル推進検討会の中間報告によりまして、最大クラスである想定では、レベル2の津波を減衰させる、または逃げる対策という検討を行って、湖西市におきましては津波避難施設の空白域の解消を最優先と位置づけている。そして今進めているところでございます。

防潮堤の整備、先ほどの御質問にもありましたけれども、やはり高額な経費、浜松市のような300億円の多額の寄附があればということもあるかもしれませんが、そういった高額な経費を要するものと考えておりますので、市議会議員の皆様を初め、市民の皆様のお意見を伺いながら、どのようなものが望ましいのか、しっかりと研究してまいりたいと考えているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） わかりました。研究をしていただきたいのですが、本当にこれこそ大きなハード整備ということで、私たちが昨年2回と、最初の先輩議員の質問にもありましたけれども、ことし1回の国会への陳情の中でも、浜名バイパスの盛り土により、防潮堤のかわりをということも要望しました

ら、石井国交相からそれは工法的に無理があること  
でというお話もいただきまして、いや防潮堤は別物  
で考えなければいけないんだという思いを新たに  
したところではあります、ぜひとも、あす来るか  
もしれない南海トラフ沖地震に対応する計画をお願  
いしたいです。

ただ、先ほど一番最初の先輩議員の答弁の中で5  
分以内に避難できる場所というものを計画的に  
進めていただいている、平成30年には避難できると  
ころが全て網羅できるという御回答で、大変喜んだ  
次第です。

ですが、ちょっと再質問という形になりますが、  
防潮堤以外にすぐできるということが、見込みがな  
い防潮堤以外に、津波から命を守る安全対策として  
は高台にも住みかえが、東北地方のみならず、当市  
内各地でも実施された歴史があります。新居の関所  
や神社等が高いところに2回ほど移動したり、また  
白須賀でも元町という地名があるように、高台へ住  
まわれ、現在また元町にもお住まいの方もいらっし  
やいますが、そういう歴史があります。住みかえと  
いうね。しかし一方で、住みなれた地域で文化・伝  
統を守り暮らしたいという心情もよくわかります。  
浸水域の方々の心情ですね。そこで、行政ができる  
こととしては、空き室が目立ってきている市営住宅  
、松山住宅だけでも高台への移転をしていくべ  
きではないかという思いに駆られておりますが、そ  
の辺はどんな御感想をお持ちでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、佐原議員の御指摘にもあったとおり、やはり  
東日本大震災のときにもそうですけれども、高台移  
転等々進めているところもありますし、ただやはり  
住民合意の形成の難しさというのは、今回の東北地  
方の自治体の方々の御苦勞を見ていれば、そこはす  
ごく理解のできるところでございます。今それで御  
質問にありました市営住宅等々につきましても、今  
御提案ございましたので、どういったことができる  
のかというのを関係部署とも相談してまいりたいと  
思いますけれども、そういった移転だとか、先ほど  
の話に戻りますが、防潮堤、さらには今まずは避難

施設ですね、そういった空白域の解消、優先事項を  
しっかりと優先順位をつけて順次進めてまいりたい  
と思っておりますので、貴重な提案として承ってお  
きたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） わかりました。では優先順位  
に従って、また一つの案として考えておいていただ  
きたいと思っております。

では5番目のところで、最後の締め在所信表明の  
中の言葉に「市民の皆様が誇れる湖西市を築くため、  
対話と行動の姿勢で市政運営に取り組んでまいりたい  
」と言われておりますが、具体的な対話の方法は  
計画されていますか。各地区に市長が出向き懇談を  
してほしいという、タウンミーティングを希望して  
いる市民の皆様の声を多数いただいておりますが、  
いかがでしょうかと通告をさせていただきました。

先ほど、さきに質問されている議員への答弁の中  
で、2月に自治会のほうから懇談会、座談会形式で  
行っていくという御答弁もありました。私の地元の  
自治会にも、このような市長さんからの、湖西中学  
校区においては2月13日に市民懇談会を開催する  
という案内状が届きました。

新市長に聞きたいことというものの通告用紙まで、  
カテゴリーがいろいろあって、丸をして、それから  
3題まで受け付けます。また市長に言いたいこと  
というのはフリートークで受け付けますというよう  
なことも具体的に書かれておまして、本当に新市長  
の早い対応に感服いたしました。

そこで、全自治会との懇談スケジュール、毎年実  
施していくのかということも含めたり、また企業・  
団体との予定、そして地域の課題を聴取して共有し  
た後の市政への反映方法などをお伺いしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、議員からも具体的な自治会へのアンケート等  
もお示しいただいたところでございますけれども、  
こういった各種団体の方々が主催するイベントや会  
合というのは、私もこの市長就任前から積極的に参  
加をさせていただいてまして、多方面の皆様からや

はり貴重な御意見をいただいているところでありませう。

今、御指摘のありましたタウンミーティングというか、対話の方策につきましては、今議員から2月13日でしたかというお話もありましたけれども、先ほどの島田議員のところでも少しお話をさせていただいたとおり、来年2月に、具体的には2月7日から16日の間の複数回、市内の4カ所におきまして、市民懇談会という題で実施することを今計画しているところでございます。そこで、やはり市民の皆様とこういった湖西市政に関する生の声、顔と顔、さっきの膝と膝、加藤議員のときにも質疑、答弁させていただきましてはけれども、やはり生のキャッチボールをさせていただいて、市政にしっかりと声を受けとめて反映できるところから反映していくということを回数を重ねていきたいと思っております。以上です。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） 2月7日から16日まで市内4カ所ということで、また市内全域の自治会というか、校区には回られる予定ですか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

現時点では2月7日から16日の4回ですけれども、今後もそういった市内各地で、もちろんこういったところというお声もあるかと思っておりますので、この時点におきましては4カ所ですけれども、さらにこういった自治会だとか、こういった集まりだとか、そういったものは皆さんとお話し合いを重ねながらしていきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 佐原佳美さん。

○6番（佐原佳美） 先ほどからも先輩議員、同僚議員がそのような希望を、市民からの希望も伝えてますし、市長さんもこうやってもう既に動き出しているところ、今後もよりよろしくお願ひしたいと思ひます。では、以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（二橋益良） 以上で、6番 佐原佳美さんの一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 次に4番 高柳達弥君の発言を許します。それでは4番 高柳達弥君。

〔4番 高柳達弥登壇〕

○4番（高柳達弥） 4番 高柳達弥です。

影山市長、市長就任おめでとうございます。所信表明について、2点、御質問をいたします。

質問しようとする背景や経緯でございますが、所信表明で述べられた1つ目の旗、子育て・教育への支援による幸福度日本一のまちのために、保育の受け皿整備やこども医療費の無料化への取り組みについてお伺ひいたします。

質問の目的。保育の受け皿整備と医療費助成の財源確保についての方針を確認したく、以下質問事項に入ります。よろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○4番（高柳達弥） 質問1、保育の受け皿整備とは具体的にどのような内容で、どのように整備し、市策定の子ども・子育て支援事業計画における行動計画での具体的事業とどう整合をとり進めていくのか。また、受け皿整備を進めるためには、現体制での福祉部門、教育部門の関係各課の連携により、子育て支援を担当していますが、組織を統合、一体化し、ワンストップによるサービス体制が必要と考えるが、市長のお考えを伺ひます。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、高柳議員からいただきました保育の受け皿整備といたしましては、議員の御質問の中にもございましたとおり、子ども・子育て支援事業計画に基づきまして施設の整備や延長保育、一時預かり保育事業等々、さまざまな保育ニーズに対応できるよう、事業の展開を考えているところでございます。

施設の整備につきましては、公共施設の再配置の計画の中で中長期的な再編計画を現在策定中でございます。その中でも喫緊の課題となっております岡崎幼稚園、これは園舎の耐震化工事もありますので、そういった耐震化の工事に合わせてのこども園化、そして新居幼稚園のこども園化、これを早期に実現いたしまして、受け皿整備を進めていく。そういっ



た計画を今行っているところです。

次に、もう一つ議員から御質問ございました子ども・子育て支援事業計画の推進につきまして、他市の状況等も確認した上で体制整備、よりやはり効果的に、そして子育ての支援、保育の受け皿整備、いろんな保育ニーズに対応ができるように支援体制を整備してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ありがとうございます。子育て・教育支援対策により、幸福度日本一のまちづくりのために、市長のリーダーシップに期待して、1問目の質問を終わります。

2問目よろしいでしょうか。

○議長（二橋益良） はい、2番目の質問を行ってください。

○4番（高柳達弥） こども医療費の無料となる対象者数や助成の費用は幾らとなり、その財源をどう確保するか、いつごろから実施する予定なのか、お考えを伺います。また、その費用の捻出には子育て支援手当、保育園・幼稚園就園助成金等を見直し、医療費財源に充てるよう検討されるお考えはどうか。今の子育て支援手当につきましては1億3,000万余の市単独支給でありますので、財政負担が大きく、市財政が厳しい中、経済的な支援を見直しいただき、経済的な支援より、保育・教育施設改修や修繕、遊具・教材等の教育環境整備、医療費無料等への財源に充てる必要があると考えますが、見直しを検討されるお考えはどうかお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今議員の御指摘ございました、まずこども医療費の助成に関しましてですけれども、現時点では義務教育期間、中学生までのこども医療費の無料化を考えているところでございます。これは選挙前の公約からもあった事項ですけれども、対象人数につきましては、例えば小・中学生ということでは無料対象となる人数は約5,000人、そしてその小・中学生の皆さんを助成したと仮定しますと、今までの実績からですけれども、件数として約6万件で、財源としては約3,000万円になると今のところ試算、積算を

いただいているところです。できれば、中学生までのこども医療費無料化に関しましては、来年度、平成29年度から実施したいと考えておりまして、平成29年度予算でお示しできるように今調整を行っているところでございます。

その財源もありますので、やはり財源を、この今まさに29年度予算編成を進めているところですので、市全体の事業のスクラップ・アンド・ビルド等々行う中で、何とか財源を確保したいというふうに考えているところでございます。

今、議員の御指摘ございました子育て支援手当等の既存の事業ですけれども、これもやはり事業の効果がこれまでどの程度であったか等も踏まえまして、やはり今後必要に応じて見直しの検討を行ってまいりたい。そしてこの子育てのこども医療費ももちろんですけれども、議員の御指摘にありました教育環境の整備、いろんな市内の学校の教育環境、やはりさらに向上させていかないといけないということもあると思いますので、そういったところへの手当も含めて、どういったところに財源を確保して、どういったところに予算を手当すべきかということをはっきりと必要なところに手当ができるように考えていきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 高柳達弥君。

○4番（高柳達弥） ありがとうございます。今までの財務省の経験を踏まえまして、見直しを行い、費用対効果により、健全財政の運営のかじ取りをお願いいたしまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、4番 高柳達弥君の一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 次に8番 吉田建二君の発言を許します。それでは8番 吉田建二君。

〔8番 吉田建二登壇〕

○8番（吉田建二） 8番 吉田建二です。一般質問をいたします。市長所信表明における市民との対話について質問をいたします。

12月定例会の冒頭で、新たに就任された影山市長が所信表明の挨拶を述べられ、その中で市民が誇り

を持つことができる住みやすく活力のあるまちを目指すために取り組もうとされている5つの施策を掲げられました。

その施策の実現に向けては、関係機関や自治体などとの連携を図り、対話と行動の姿勢で市政運営に誠実に取り組んでいくと明確に決意を述べられており、確固たる力強さを感じました。着実な実践を大いに期待していきたいと思います。

そこで、市長が述べられた市民との対話について、市長の考えや思いをもう少し具体的にお尋ねしたいと思います。また、市民との対話を促進することが、さらに市民協働の推進へとつながっていくとの思いのもとに、次に2点について質問いたします。

まず最初の質問でございます。

地域に向向いて積極的に意見を聞く場を設けたり、自治会や各団体の要請に応じて意見を聞きに伺ったりすることなど、ともに重要であります。その他にもいろいろな形が考えられます。市民との対話をどのような形で進めていこうとされているのか、市長の考えや思いをお尋ねいたしますが、これまでに同僚議員の質問に対する答弁で述べられたことは割愛いただいて構いません。ただ、今まで述べられていない市長の考えや思いがおりになったり、また強調されたいことなどがございましたら、その点についてお尋ねしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、吉田議員からも御質問いただきましたとおり、市民との会話、大変重要だと思っておりますし、みずからの足で現場へ出向いて、膝そしてフェース・トゥ・フェースで市民の皆様や関係団体の皆様と討論、議論をさせていただく。大変重要だと思っておりますので、先ほどほかの議員の方々の答弁の中で市民懇談会、来年2月ということをお話しさせていただいたところでございますけれども、そういったところに積極的に出向いて行って、さらにこの市民懇談会だけでなく、いろんな御要望や御意見を聞く場、そしてこちらからも情報発信をさせていく場合は随時設けたいと、日程の許す限り考えたいというふ

うに思っているところでございます。

そしてそういったものをやはり市政運営に反映させていく。しっかりと市民の御要望にお応えする。結果をつくり出すということが、やはり市民の皆様や関係団体との信頼関係につながると考えておりますので、常に能動といった、対話と行動といった所信表明にもありましたけれども、その精神を心がけてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 吉田建二君。

○8番（吉田建二） 当市の総合計画の基本構想に掲げる将来像は、市民協働でつくる、市民が誇れる湖西市の実現であります。市民が誇りを持てる湖西市を、行政と市民とがお互いの立場を理解して役割を分担し、協力し合う市民協働でつくり上げていこうというものであります。

複数の人が協力し、何か一つのことを行おうとするときは、そのメンバーが心をつなげて取り組むことが大事でございます。心をつなげるには、メンバーがお互いをよく理解し合う相互理解が不可欠であります。このことは広く皆さんが承知されていることでございます。

したがって、市民と行政とが市民協働で進めようとするならば、市民と行政の相互理解を図ることが必要となります。それゆえに、このたびは新市長におかれては市民との対話を重視して市政運営に取り組まれるということは、大変理にかなったことで、全面的に支援をするものでございます。

さて、対話といえば一方通行ではなく、向かい合うなど相対して話し合うことであると言われることから、行政運営における市民との対話は、行政における広報と広聴活動であると私は捉えています。先ほどの答弁では、市民懇談会を予定されていることで、より市民との対話を促進していただきたいと思っております。

そこで、行政における対話の2つの要素のうち、広報についてお尋ねいたします。行政からの情報提供や提供した情報に対する理解を促進していただくための広報活動に対して、どのように考えておられるか、市長の所見をお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

吉田議員からも力強い、そして温かい激励というふうにとめさせていただいております。

広報活動についての御質問もございましたけれども、やはり市民との対話によって得られた意見や情報というものは、市民の皆様生の声でありますので、多様なニーズ、考え方を把握させていただいて、やはり施策にできる限り反映していく。そのためには大変貴重なものというふうには認識をしております。

これからの、例えば今後の事業計画であるとか、その計画の策定、事業の展開を図る過程におきまして、こうした意見に丁寧に対応することが、市民の皆様そして市政に参画する意識、行政サービスの満足度の向上のためには、必要だと考えております。

例えば今後ですけれども、広報こさい、月刊誌で刊行させていただいてる広報誌でありますけれども、そういった広報こさいにおきまして、市長のコラム欄も執筆をさせていただいて、定期的に連載をさせていただく予定となっております。そういった紙面の活用ですとか、それ以外にも例えば先ほどの懇談会もそうですけれども、積極的にこちらのほうから情報発信の方策、これは先ほどのSNS等々もありませんけれども、なるべくわかりやすい形、そしてアクセスのしやすい形で、市民の皆様に見える形、わかる形で行っていきたくと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 吉田建二君。

○8番（吉田建二） 広報に市長みずからが市政に関するコラムを執筆されるということで、大変そこら辺については期待をさせていただきたいと思っております。

特に広報は、単にお知らせするだけではなく、いかにわかりやすく、正しく、行政に対して理解をしていただくための、そういう工夫や配慮を行うことが大事だと思います。市民協働を推進していくためには、いわゆる対話、そしてその対話というのは、先ほど申しあげました広報と広聴、こういうことでございます。

そこで、新市長にはぜひ現状を見詰めていただきたいとこんなことを思いまして、少しその点を申し

述べさせていただきます。

行政を推進するための設計書ともいえる総合計画がございます。せんだって中間期における見直しが行われたばかりであります。その基本計画の中に、目指すまちの姿ごとに施策の方向と主な事業、そして成果指標と目標数値が明記されております。

この中で、情報化による便利な生活の項目における成果指標と目標数値を見ると、市のウェブサイトへの年間アクセス数は平成21年は17万2,000件でありました。計画期間の中間年次である27年は10万件を加算した27万件を目標にしておりましたが、実績は目標値の2.5倍に当たる68万件を超えるアクセスがあり、これは21年と比べると約4倍の件数となっております。多くの市民の方々が頻りに市のホームページをごらんいただき、市からの情報を求めていたと言えます。

その一つ上段の指標を見ますと、市民の意見を聞く機会が充実していると感じる市民の割合は、平成21年は10.4%で、中間目標値は15%ですが、実績は11.3%で、0.9ポイントの微増となっております。

また一つ下段の指標を見ますと、市政に市民の意見が反映されていると答える市民の割合は、平成21年は8.2%で、中間目標値は30%ですが、実績は9.7%で、1.5ポイントの微増となっております。

市のホームページのアクセス数は4倍になっていることから、中間目標値は余裕を持って達成すると思われましたが、現実には微増にとどまり、ほぼ横ばいの状況となっております。

一方、広報活動については、総合計画の推進に向けての協働のまちづくりを進める仕組みの成果指標を見てみますと、市からの市政情報の提供に満足していると答える市民の割合は、平成21年は21.3%です。中間目標値には50%を掲げて取り組みましたが、27年の実績は18.8%で2.5ポイントの減少となっております。見方を変えれば、市からの情報提供に満足していない人が2.5ポイントふえたと言えます。

また一つ下の指標の住民の参画や協働が行われていると答える市民の割合は、21年は13.4%、中間目標値は40%、これに対し実績値は13.2%で、21年に比較して0.5ポイント減少しております。総合計画の

計画期間、10年間の前半期に当たる約5年余りの間に、広報活動は市民意識においては後退しているということでもあります。

このような現状は、行政として反省し、危機意識を持って、どこに問題があったかを把握し、総合計画の後半期間の5年間でおくれを挽回するように精いっぱい努力することが大事であると考えます。私も市政にかかわる一議員として、状況を謙虚に受けとめ、改善に向けた努力の必要性を強く認識いたしました。このような状況の中で、新市長におかれては市民との対話を重視して、市政運営に取り組みたいということでもありますので、市長の活躍に大きな期待を寄せているところであります。

ここで質問をお願いします。市民との対話における2つの要素として広報と広聴がありますが、広報については、ここ5年余りの間に市民の評価というか、意識というのか、指標数値が後退してしまった現実があります。このような現状に対して、市長の所見を改めて伺いをいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

今、吉田議員から御指摘いただきましたとおり、広報、実際の実績値として、やはり市民の期待、そして目標値等々に対してなかなか厳しい現実が示されたというのは残念でありますけれども、やはり市民の皆様がそれだけ期待を持ってこの湖西市、市政、もちろんウェブサイト等々のアクセスを見ても、そういった期待のあらわれであるというふうを受けとめることができると思います。

ぜひ今後、これから、そういったところはすぐに現状分析なり、こういったところを改善点としてあるかということ进行分析しまして、先ほどの発信ですね、ウェブサイトでの発信もしくはSNSであったりですとか、市民の皆様がわかりやすくアクセスしやすい形、そういったものをしっかりとニーズの合った広報活動を行ってまいりたいというふうに、こういったものは、広報はやはり発表するもの、もしくはお知らせするものを迅速にやることこそ、広報のかなめだと思っておりますので、そういったことを迅速に発信できるような体制をとってまいりた

いというふうを考えております。

○議長（二橋益良） 吉田建二君。

○8番（吉田建二） 市長のほうから今答弁いただきました。ぜひ行政からのお知らせはわかりやすく、正しく、お知らせいただくように工夫のほうよろしくお願い申し上げます。

それでは2番目の質問をお願いいたします。

市民との対話により得られた意見や提案など、さまざまな情報をどのように整理し、まとめ上げ、どんなプロセスを得て行政に反映させていこうとしているのか、お尋ねをいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

少し今までの質疑答弁とかぶるところもあるかもしれませんが、やはり市民との対話、こういったところで直接もしくは間接も含めて得られた意見とか御要望、情報等々については、やはり市民の皆様への今湖西市に対して必要とされている生の声でありまして、こういった市民ニーズを的確に把握して施策に反映していく。そういったことは大変貴重な御意見であるというふうを考えているところでございます。

そしてそれをいただいた声をどうやって反映していくか。これはやはり湖西市が行う事業の計画、もしくはその策定途中の事業の展開を図る過程におきまして、意見等におきまして丁寧に対応していく。何を変えていく、もしくは何を行っていく。そういったことを丁寧に対応していくことが市民の皆様への市政に参画する意識を高める、行政サービスに対する満足度も向上させるということだと考えておりますので、しっかりといただいた意見に対して何ができる、そして一部できないかもしれませんが、何を実現するためにどうやって行っていくか。そういったことを丁寧に対応するということが非常に重要だというふうに考えている次第でございます。

○議長（二橋益良） 吉田建二君。

○8番（吉田建二） ぜひ市民からのさまざまな情報をぐあいよく整理し、まとめ上げ、行政に反映していただきたいと思いますというように思います。ただいま市長の力を込めた答弁をしっかりと受けとめさ

せていただきます。

市長の今後の取り組みに大きな期待を寄せている市民は大勢おられます。私もその中の一員であります。市民との対話を積極的に実践され、市民協働によるまちづくりを強力に推進していただくことに期待していることを申し上げまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、8番 吉田建二君の一般質問を終わります。

それではここで昼の休憩とさせていただきます。再開は午後1時といたします。

午前11時56分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて、午前に引き続き会議を再開いたします。

次に5番 楠 浩幸君の発言を許します。それでは5番 楠 浩幸君。

〔5番 楠 浩幸登壇〕

○5番（楠 浩幸） 5番 楠 浩幸でございます。通告に従いまして、一般質問を行いたいと思います。

まずは影山新市長、就任おめでとうございます。就任に当たりまして、今後4年間の湖西市をどのようにかじ取りを行って、市長が目指す、若者にも高齢者にも暮らしやすいまちづくり、そして未来に輝く湖西市を実現していくのか、市長のお考えを伺いたいと思っております。

通告した質問は4点でございます。まず最初の1問目の質問に移りたいと思います。

影山新市長市政に向けて、過去の市政に対して、佳処の継承を図りながらも湖西市政に新しい風を送り込むという言葉の中から読み取りますと、市政改革をしっかりと行っていくというような気概を感じることができました。

市長は、新湖西市の目指す将来像と目標に対して、どのようなことを考え、進めていこうと思っておられるのか、簡単に結構でございますので御答弁いただきたいと思っております。

○議長（二橋益良） 市長。登壇して答弁をお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

先ほどの御質問に対しましては、もともとの所信表明でも申し上げましたとおり、湖西市民の皆様が住みやすいと感じて、湖西市に住んでよかった、そしてこれからも住み続けたい、そう思えるように、子育てや教育、さらには福祉、医療、住宅や産業の振興などなど、一つ一つの政策を着実に前に進めていくこと、これが私の使命であると強く感じ、重く受けとめているところでございます。

それら政策の実現のためには、私の行動力、そしてこれまでの行財政経験をいかんなく発揮し、導き出した方策につきまして、職員の皆様とともに一丸となって取り組むこと。これが必要であるというふうに考えているところでございます。

住みやすいまちづくり、この湖西市のため、心を一つに頑張ってまいりたいと思います。ぜひ皆様、議員の皆様方もお力添え賜りたくよろしくお願いを申し上げます。以上です。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君、どうですか。

○5番（楠 浩幸） 心強い御答弁ありがとうございます。所信表明の中、なかなか難しい言葉が使われておりまして、佳処の継承という言葉が使われておられました。これ、一生懸命、私、辞書で調べたんですけども、これは前市政の踏襲ではなくて、先ほど高柳議員の答弁にもありましたけれども、例えば子育ての部分におきましてもスクラップ・ビルドを行いながら施策を実行していくよというような言葉がありました。政策の再構築をお考えなのか、お伺いしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

そのスクラップ・アンド・ビルド、これは何に関しても新しい施策を行う、もしくは今まで行ってきた事業が適切かどうか、それは検証が必要だと思っておりますので、もちろんよいもの、これは引き続き市政として行っていききたいと思っておりますし、子育てに限らずですけども、これまでの事業がどれだけの効果があったのか、そしてこれからも続けていくべきなのか、新しい方策を見出すべきなのか、

それは常に考えながら行っていきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） ありがとうございます。検証が必要という言葉いただきました。ありがとうございます。今後の影山市政に期待しながら見守っていききたいなというふうに思っております。

2つ目の質問に。

○議長（二橋益良） 2つ目の質問に行ってください。

○5番（楠 浩幸） 5つの旗を掲げられた影山新市長でありますけれども、まず1つ目の旗に非常に興味深い旗を掲げられました。幸福度日本一のまちを掲げられておりますけれども、これ、どのような状態になったら日本一に到達できるのか、私たちが判断できるのか、指標化をしてベンチマークをとって目標管理をするお考えがあるかということなんです。

前市政におきましても、総合計画を立案して、実施計画のもとに市政が進められてきたとは思いますが、なかなか私たち市民や議員がどこまで事業が到達しているのか、ありがたい姿に到達できているのか、そういったような達成感のようなものがなかなか感じる事ができなかったというのが正直なところでございます。ですので、市民はもとより執行部の部長さんと私たち議員も、やはり同じように課題を共有して、達成感を味わいたいというふうに思っております。それが私たち議員としてのやりがいであったり、執行部の皆さんのやりがいである。市民の皆さんについては湖西市に対する愛着につながると考えますけれども、市長の考えをお伺いしたいと思えます。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

議員のおっしゃる幸福度日本一、これは所信表明でも公約でも述べさせていただきましたけれども、やはり測定指標というのを、なかなか非常にどんな指標でやるのか、そしてどういったことが達成点なのかというのは非常に難しいかと思えます。ただ、まずは例えば今の制度で申し上げますと、毎年行っ

ております市民の意識調査で、例えば住みやすいか、よくなった、そういった好意的なというか、満足度が、例えば右肩上がりになっていくような、そういった市政が運営できるように全力投球をしていくと。そして全市民の、湖西市民の皆様から湖西市がよくなったねと言われるような努力をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 基本的には市民の、毎年行っておる意識調査において満足度を確認しながら進めていくということだったんですけれども、これやはり幸福度というのは、日本全国でやられているところもありますけれども、やはり地域によって求める幸福度というのは異なると思うんですね。ですので、湖西ならではの指標というものが必要になってくるかと思うんですけれども、その指標項目について選定、改めてまた見直すお考えはありますか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

湖西ならではのとお話がありましたけれども、やはり湖西市民の皆様でも、何を重きを置くかとか、何を求められているか、それはやはりそれぞれ異なることもあろうかと思えます。子育てが重要であったり、もちろん産業の振興、雇用が重要であったりと、さまざまであるかとは思いますが、まずは何を求められているか、それを明らかにした上で、そういった指標それぞれがやはり市民の皆様の満足度が底上げされていくような方策をとりたいと思っておりますし、もしもそういった具体的にこういった指標でというものがあれば、そこは御叱咤なり御教授を皆様からいただきながら、できることをしっかりと構築していきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 先ほど先輩方、ほかの議員、同僚議員の質問の中にも、その進め方を市としては対話の中から市民の声、ニーズを拾い上げて施策を講じていくということでもよろしかったでしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） 今、議員のおっしゃるとおり

で、そこはやはり対話、そして行動しながら、こちらからも情報発信しながらお知らせをしていく。そして市民の皆様のニーズや御要望、しっかりと受けとめて進めていきたいと考えております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） この件についても、しっかりと私どもも達成感を味わえるような施策を期待しながら見守っていききたいなというふうに思っております。

次の3点目の。

○議長（二橋益良） では、3番目の質問に移ってください。

○5番（楠 浩幸） 産業振興について、お伺いをしたいと思います。湖西市の商工農、全産業の従業員数が2万7,000人というふうなことは御案内のとおりだと思っております。また、その中で自動車産業に従事する方が2万人。全体の75%を占めており、偏った産業構造になっているというようなことは、議員の先輩方、執行部の皆さんも御案内のとおりだというふうに思っております。

昨今では、自動車産業をめぐるまして電動化や自動運転などの環境が目まぐるしく変化をしていく中で、車体メーカーはもとより、サプライヤーまでも再編が進められておるところでございます。もっと言えばグローバル、ヨーロッパのメーカーさんが日本にやってきて、牙城を崩そうというような動きも散見されるところです。

そんな中で、今後の湖西市はどのような産業構造を目指すのか、市長の考えるビジョンをお伺いしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今、楠議員御指摘のとおり、湖西市の産業構造につきましては、やはり豊田佐吉翁のふるさとということであり、自動車産業を中心としたものづくりのまち、これは今まで栄えてきたこと、これはもう疑うことない事実だというふうに認識をしております。さらに今後ですけれども、やはり今後ともさらに発展をさせていくためには、自治体としてやはり創意工夫が必要だと実感はしているところです。

これまでの自動車産業を初めとする製造業、今でもここは湖西市の基幹産業となっておりますので、これを中心にしていく。今後ともそれが今の産業構造のように、今の2.7万人分の2万人という話がありましたけれども、そのとおりに行くかどうかは別にしまして、現状はこの基幹産業であることに違いはないわけでございますので、こういった現状を的確に捉えながら、将来にわたり地域経済が持続できる、そして活性化していく、そういったバランスよい発展のために、例えば工業用地の確保であったり、広域幹線道路の整備の実現等々に向けて行っていく。そしてそれが自動車工業、製造業、さらには新規の新産業都市の構築かもしれませんけれども、バランスよくこのまちが発展していくような施策を取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 市長の答弁の中で、まずは基幹産業を維持しつつも周りを見ていくよということなんですけれども、やはりそういった環境の変化が本当に今ここの、二年で激しく動いている状況を、やはり市民の皆さんも含めて、やはり現状認識をして、そしてまず私たち、執行部の皆さんも重々承知とは思いますが、今、湖西が置かれている状況がどんな状況なのかということ、やはり共有をしたい。そういった意味では、勉強会のようなものを立ち上げてはどうかというふうにちょっと提案したいんですけれども、そういったような考えはありますか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

先ほどの加藤議員のところでも少しあったかもしれませんが、こういった産業の育成、もちろんそれは今申し上げた製造業、自動車工業もそうですし、例えば観光業等々もそうかもしれません。そういった湖西市の産業構造、ひいてはこの地域の活性化のために何ができるのか、こういった方策が望ましいかということはもちろん、勉強会もちろんこの市役所だけではなくて、市議の皆様、そして商工会や地域のJCだとか、いろんな関係者の方々いらっしゃると思います。お知恵もアイデアも拝借しな

がらと思っておりますので、それはそういった勉強会、もしくは懇談会とかさまざま、どういった場が適切なのかは検討してまいりたいと思いますけれども、そういった勉強会の場が最も望ましいということであれば、ぜひ参加なり、市役所としてもそういったところに参画していく、もしくは主催していく。どういった形式が望ましいかも含めて御知見おかりしながら行っていきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 先ほど加藤議員のお話の中からも、市民のアイデアを求めながらオール湖西で取り組んでいくよという御答弁もありましたので、また御検討いただきたいというふうに思います。

最後の4点目の質問に。

○議長（二橋益良） はい、どうぞ。

○5番（楠 浩幸） 最後の質問ですけれども、今述べられた影山新市政の政策実現に向けて、戦略の部分についてお伺いをしたいと思います。

公約を実現していくために、自治体の創意工夫と市長みずからの行動と、先ほど来答弁の中では市民の皆さんとの対話という形で現状認識、そしてアイデアを抽出していくよという御答弁をいただきましたけれども、その先ですね、対話の先に市民の声をどう反映していくのか。もう少しちょっと突っ込んで仕組みづくりを考えられるのかどうか。そこからあたりももう少し補足してお話いただければと思います。よろしくをお願いします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

議員の御指摘のとおり、やはり対話して、そこからどう実現に持っていくかということが重要でございまして、やはり所信表明でも申し上げましたけれども対話と行動、これによって市民懇談会、そして市内の企業であるとか関係団体の訪問、各種イベントの参加、こういったいろいろなところにまず足を運ばせていただいて、直接に皆様の声をお聞きしていく。まずはそこを課題を共有させていただくことが重要だというふうに思っております。さらにそし

て、そこからいただいた意見をどのように反映させていくか。これはやはり私だけ、もしくは市役所の中だけではなくて、市議の皆様であつたりですとか、関係機関の皆様としっかりと課題を共有した上で、どのような解決方策があるのかということは協議を重ねた上で、政策の優先順位を見きわめる等々の実現可能性をはっきりと指し示した上で、政策の実現を図ってまいりたい。そのような手順を踏んでいきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 今の御答弁の中で、やはり私たち議員ともしっかりと議論しながらというふうなお言葉をいただきましたけれども、これを仕組み化するお考えがあるかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

ちょっと具体的な制度設計がどういったものかを、ちょっとそこは認識が違っているとあれですので、またそこは市議の皆様も含めて、どういった制度設計、どういった仕組みなのかということも御協議はさせていただきたいし、はっきりとしたこういった枠組みというか、ものが必要だということであれば、そこはそういった協議をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） ありがとうございます。これから制度設計なり、仕組みづくりについても協議させていただければなというふうに思います。

結びになりますけれども、最後に改めて影山新市政に、将来像を明確にして何をいつまでにどのように行うのか。先ほど来も質疑にありましたけれども、もう一度、今あるものは、いいものは継承していくよと。これから見直していかなければならないものについても、多くあろうかと思っておりますけれども、改めてお伺いをします。湖西市の総合計画にもございますけれども、基本構想を再構築していくお考えがあるか、お伺いをしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。



先ほど来お答え申し上げているところですが、そこはやはりいいものは当然継続をしていく、そして改善点があるものは順次できるものから当然早急に改善していく。これは当然今すぐにでもやれることからやっていくというのは当然のことです。基本構想云々ももちろん修正が必要なものは考える必要があるかなと思いますけれども、まずは例えば来年度予算等々、そういった予算で反映できるもの、例えばもしくは制度設計から再考が必要なものとか、創設していくものというような場合だとか、制度もしくは事業の性格に合った形で行っていきたくて思っていますので、今の基本計画そのものというよりは、まずは予算や制度の一つ一つの個別の制度がどうなっていて、それをどのように改善していくかということを考えていきたいというふうに思っております。

○議長（二橋益良） 楠 浩幸君。

○5番（楠 浩幸） 必要があれば見直しをしていくよということでございました。

若い市長でございますので、これからどんどんと吸収をされて、現状を把握されて、制度設計もしていられる。私どもが期待するのは、やはりスピード感を持った意思決定と、そして影山新市政に期待を申し上げて、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、5番 楠 浩幸君の一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 次に11番 荻野利明君の発言を許します。それでは11番 荻野利明君。

〔11番 荻野利明登壇〕

○11番（荻野利明） 11番 荻野利明。私は日本共産党を代表して、一般質問を行います。

質問は、市長の所信表明に対する質問ということで、質問しようとする背景や経緯。多くの市民が影山新市長に期待をしている。この市民の期待にしっかりと応えていただき、幸福度日本一の湖西市を実現していただきたい。

質問の目的。影山市長は選挙期間中にさまざまな公約を掲げました。この公約に多くの市民が期待を

寄せています。財源の確保の問題など難しい局面に突き当たることもあると思います。しかし、影山市長には財務省での行財政経験や人脈などを最大限に生かして、所信表明で述べられた政策実現に邁進をしていただきたいと思います。

それでは1点目から質問をさせていただきます。

影山市長は、選挙のときもこうしたチラシをまかれて、いろんな公約を掲げているわけですが、任期4年間でこれだけは必ず実現するというものを挙げていただきたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

荻野議員から冒頭激励もいただきましたので、しっかり頑張ってまいりたいと思いますけれども、もちろん、やはり全ての公約を実現することが理想でございます。ただやはり現実として、これから財源の確保ですとか、これからの制度設計が必要なもの、また関係機関等々との調整がありますことから、一つ一つ、公約に掲げたこと、もしくは所信表明として改めて述べさせていただいたこと、これを丁寧に短期、そして中長期に分けて、手順を踏んで実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。ただ、例えば公約、所信表明等々に掲げた中で、中学生までの医療費無料化といった平成29年度から予算措置が整えばできるようなものにつきましては、速やかに実施に向けて取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 荻野利明君。

○11番（荻野利明） ありがとうございました。何となく拍子抜けしたというか、もう3つぐらいは挙げられるのではないかなというふうに思ってたんですけども。確かに中学生までの医療費の無料化、これは私は非常に高く評価をしたいと思っています。それで、このチラシを見ると、高校生まで医療費を助成しますというふうに書いてあるんですけども、これ4年間のうちにできませんかね。4年間で。ちょっとお答えください。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

1つだけ、別に、例えばで今、1つ述べさせていただきましたので、もちろん1つに限らず、来年度予算からできるものからは始めてというか、進めていきたいというふうにはもちろん考えているところです。

今の御質問のこども医療費というか、無料化、高校生のお話ですけれども、まず29年度予算につきましては中学3年生まで。そして高校生につきましてはやはり現時点で、この湖西市としての制度がまずは、例えば中学生までは今ある程度の軽減措置を行ってますけれども、高校生に関しましてはそういった制度が今はないということですので、今後しっかりと財源の手当を含めて、できるだけ前向きに、4年間でということがございましたけれども、できる限り早期に実現に向けて検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 荻野利明君。

○11番（荻野利明） ぜひ1つ、2つ、3つじゃなくて、もっともっといっぱいですね、このチラシなんか見ると、これ共産党がつくったビラじゃないかと思えるような部分もあるんですね、本当に。インフルエンザの予防接種の助成、こうしたのだから本当に我々のつくったようなビラに思えてしまいますのでね、これからもいいことに対しては、市長を応援していきたいというふうに思っています。悪いことは反対したり批判はしますが、ぜひ可能な限り実現をしていただきたいと思います。

次に2点目。

○議長（二橋益良） 2点目の質問に移ってください。

○11番（荻野利明） こども医療費の無料化の問題で、同じなんですけども。

○議長（二橋益良） 3点目ですか。

○11番（荻野利明） ちょっと言わせて。

○議長（二橋益良） 今2点目の質問でそのまま。

○11番（荻野利明） 今度2点目。中学生までの医療費の無料化、これは完全に無料化することです。中学生まで完全に無料化することです。一部負担金もなしでということですね。

○議長（二橋益良） 答弁は別にもらってください。

もう終わってください。

市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

中学生までのこども医療費のお話という認識で言えば、今たしか月4回500円までという現行の制度があるかと思えますけれども、中学生までに関しましてはそれを無料化するという考えで、今例えば財政局なり予算を組んでいるところ、もしくは事業を行うところと調整を行っているところですので、その方向で進めていきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 荻野利明君。

○11番（荻野利明） ぜひこれ実現していただきたい。来年度からね。お願いをしたいと思います。

次に3点目です。人口の減少対策として、市街化区域と調整区域の線引きの見直しによる宅地造成ということを言われているわけなんですけども、私はこれだけでは不十分だと。ちょっとこれだけで人口がふえるかという、ふえないと思うんですね。

今この少子高齢化の時代には、やはり福祉の充実、それと地域経済の活性化が欠かせないというふうに思うんですね。福祉の充実といっても、例えば医療費の問題でも、ただ世間並みにやっていったでは同じなわけですから、世間よりももっと上。例えばこの中にも給食費に対しての助成ということも言われているんですけども、よそでやってないような福祉の充実というのをやらなければ、やはり人は入ってこない。並みの福祉の状況ではね。その辺、いろいろ市長はこの施政方針の中でもいろいろいいことを言ってますので、世間並み以上のことをやる必要があると思うんですね。

それと地域経済の活性化、この問題も私今まで議会の中でも言ってきたんですけども、やはりずっと頑張ってきた湖西の市内の中小業者の皆さんに仕事をいろいろつくってやって、そこでそのお金が市内で循環をする。そういう、お金が市内で循環する。よそ行っちゃうんじゃないで。そういう地域経済、そのことによって雇用も生まれるでしょうし、若い人が外へ出ていなくなる。そういう地域経済。私、住宅リフォームのことをいつも言うんですけども、

そういったことも含めて地域で地域の経済が活性化  
する。そういう地域経済というのをやる必要がある  
と思うんですね。そうした取り組みについて、市長  
はこの人口減少対策、これだけでは私は無理だとい  
うふうに判断するんですけども、市長はどうお考え  
でしょうか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今、荻野議員が御指摘いただいた冒頭の部分、そ  
のとおりでございます。都市計画の線引きの見直  
しというものは、やはりあくまでも人口減少対策に  
関してのツールの一つ、手段の一つ、一つの手段で  
あるというふうに考えて、捉えているところでござ  
います。

それで荻野議員御指摘の、まず1つ目の福祉の充  
実につきましてですけれども、これはやはり健康づ  
くりでありますとか、地域の福祉、児童福祉、障害  
者福祉、高齢者福祉といったさまざまな分野が広く  
て、どれも非常に大切な分野であるというふうに考  
えておりますので、例えば先ほどのほかの議員の質  
疑にもございましたけれども、例えば在宅医療や介  
護、さらには就労の支援といったようなあらゆる面  
をバランスよく施策を実施して、市民の方々にやは  
り幸せだったり、豊かさだったり、先ほどの幸福度  
日本一もありましたけれども、実感できるような政  
策を提供していきたい。その中でやはり先ほど世間  
より上というお話がありましたけれども、やはり世  
間より上、もちろんそれを目指して、ほかの自治体  
でどういったことが行われているのか、湖西市では  
何がどこまで必要なのか、そういったことをしっ  
かりと研究して行っていきたいというふうに考えてお  
ります。

2つ目の地域経済の活性化、これについてもやは  
り、先ほどのほかの質疑にもございましたけれども、  
観光含めた産業振興、そのためにはやはり、中小も  
ちろん初めとする地元の企業、これを元気にすると  
ともに地域全体がこういった地域に存在する魅力を  
掘り起こして、国内外に情報を発信していく。そし  
て湖西市全体が元気になるような政策をともにつく  
っていききたいとそういうふうに考えております。

○議長（二橋益良） 荻野利明君。

○11番（荻野利明） ありがとうございます。ま  
あいや、3番は。4番目についてもいいです、こ  
れはもう。市民会館についてはね、これはいいです。

次に5番目。湖西病院について、今後どのような  
位置づけで経営を行っていくのかということなんで  
すけども、ちょっとわかりにくい文章なんで解説を  
しますと、新しい市長が誕生しましたので、ぜひ新  
市長にちょっと確認の意味で伺いたいですけども、  
湖西病院をこの地域の中核の総合病院として、公立  
の総合病院として、これからも維持していく考えか  
どうか。私はそうしてほしいんですけどね。その辺、  
確認の意味で伺いたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今、議員の御指摘のありました湖西病院、役割と  
しましては、やはりこの湖西市民の健康保持に必要  
な医療を提供する。そしてやはり地域の市民病院と  
して、中核病院として、市民の医療の拠点として入  
院医療であったり、専門の外来を提供することを考  
えているところでございます。

また、こういった地理的な条件もありますので、  
例えばお隣の浜松市さんですとか、豊橋市さん、こ  
ういったそこにある高度な医療機関ですとか、市内  
の、逆に湖西市内の診療所等々、そういったところ  
と連携をしていくということによりまして、市民の  
皆様にやはり安定して、そして良質な医療を提供し  
ていくこと、これが重要だというふうに考えており  
ます。

さらには年間を通じて、やはり24時間体制で救急  
の受け入れをしっかりと行う。そうした体制をしっ  
かりと確保するとともに、健診センターで実施する  
各種の健診等々によりまして、疾病予防であります  
とか、そういった病気の早期発見や早期治療、こ  
ういったものも行ってまいりたいというふうに考えて  
おります。やはり湖西市民に安心して医療行為を提  
供することが第一であり、重要だと考えております。

○議長（二橋益良） 荻野利明君。

○11番（荻野利明） わかりました。非常に安心し  
ました。

5番終わって、6番もパスします。

最後、7番目ですね。福祉の充実による日本一思いやりのあるまちの中で、今社会的な問題となっています子供の貧困の問題。この子供の貧困問題について、市長はどんな認識を持っているのか。今6人に1人ですか、相対的貧困率ということになっている。私は重要な問題だというふうに考えています。

市長のこの子供の貧困に対する認識はどうか。また、対策をとる考え。前回の一般質問でも私、この問題取り上げたんですけども、そこで言ったのは、各部長らがどうこうやるといってもなかなかできないと。湖西市としての総合的なこの貧困対策に対する総合的な対策がないと、各部長らがあれやりたい、これやりたいといってもなかなかできないと。そういった意味で、総合的な対策というのをつくってほしいと三上市長には言っておいたんですけども、そうした意味で、市長はこの子供の貧困対策について、どう考えているのかをお聞きます。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今議員御指摘のとおり、やはり子供の貧困、これはテレビだったり新聞だったり、各種の報道でもたびたび取り上げられている本当に重要な課題であるというふうに認識をしておりますので、やはり子供たちの明るい未来、これが例えば生まれ育った環境に左右されることがない、また貧困状況が世代を超えて連鎖してしまう、そういったことがないようにしていくことが、やはり私ども行政であったり社会全体としての責務だというふうに重く捉えているところでございます。

湖西市としてももちろん対策としまして、子育ての世代の経済的な負担を極力軽減していく。そのためには先ほども少し答弁の中で申し上げましたけれども、こども医療費の助成をこれからも充実していくこと、さらには、議員にも先ほど御発言いただきましたが、給食費だったりとか予防接種費、そういった助成、さらには給付型の奨学金という形で拡充をしていく。そういった教育・子育て、しっかりと充実をさせていく。そういったことを検討して、パッケージで進めていきたいというふうに考えており

ます。

○議長（二橋益良） 荻野利明君。

○11番（荻野利明） わかりました。非常にわかりやすい答弁をいただきました。ありがとうございます。以上で私の質問を終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、11番 荻野利明君の一般質問を終わります。

---

○議長（二橋益良） 続きまして7番 渡辺 貢君の発言を許します。それでは7番 渡辺 貢君。

〔7番 渡辺 貢登壇〕

○7番（渡辺 貢） 7番 渡辺 貢であります。

市長の御就任をお祝いを申し上げます。まだ就任早々でございますので、さらに詳細な事情を把握して、熟慮検討する時間が必要だと、そういう段階だとは思いますが、市民としてはもう一步踏み込んだ内容として、余りせいてはいけませんけれども、市長の思いや意気込みを聞かせていただきたい、そういう声もございますので、そこで具体的な施策を特定をせずに質問の通告をさせていただきました。

所信表明で掲げられた選挙公約は、本市の主要課題を的確にあらわしているものと評価をさせていただきます。私どもも一緒に努力していかなければならないそれぞれの施策項目だと思っております。

朝から、私は9番目の質問になりますので、書かれた内容について、重複のないお答えが残っているとすれば、内容はかなり限られるなというふうに思っております。ここに至るまでの先輩議員諸氏の質問に対する答弁を聞いておまして、これ以上の質問は余りしないほうがいいんじゃないかなという思いもありますけれども、これまでの質問答弁で話題にならなかった施策を挙げますと、給付型奨学金、それからコーちゃんバス、工業用地の確保、それから農水産物のブランド化などが残っているかなというふうに思っております。

そこで、これまで話題にならなかった施策などについて、何か1つでも2つでも、改めて市長の思いや意気込みとして、もう一步踏み込んだお話を聞かせていただければ大変ありがたいなというふうに思います。

今申し上げた給付型奨学金は、これは国の施策として今回始まるというふうな新聞報道もありますし、コーちゃんバスは多分お聞きになってると思いますけれども、担当の職員は一生懸命やってるんですけども、なかなか不満の多い事業でございます。それから工業用地の確保については、新しい場所を勧めるよう進めておりますけれども、この間、不動産屋さんの皆さんに議会に集まっていただいて、いろんなお話を聞きましたら、需要は結構あるんですよと、湖西市にはなかなか提供する場所がありませんというふうなお話を不動産業者の方からお聞きいたしました。それから農水産物のブランド化、これは前市長もそういう心がけで進めようということによっておりましたけれども、なかなか具体的には進まないというのが現状でございます。

そういうことを申し上げまして、何かコメントがあればいただきたいということでございます。よろしく申し上げます。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

確かに重複されてない範囲でいうと今の4点ぐらいに絞ってということになりますけれども、まずやはり今まで選挙の際に掲げた公約ですとか所信表明に申し上げさせていただいたことにつきましては、やはりこの湖西市が今抱えている課題、先ほどいろんな議員の皆様から質疑をいただいたとおり、やはり人口の減少を食い止めたりですとか、活気あるまちをつくるため必要なものだと思っておりますので、早急でできるものから進めてまいりたいというふうに考えております。

その上で順次できる限りお答えをさせていただきますと、1つ目の給付型の奨学金でございますけれども、先ほど渡辺議員からは国の制度もこれから始まるというふうにお話がありました。おっしゃるとおりで来年度予算から必要な財源、国のほうでも確保されておりますけれども、私自身が今考えているのは、現行この湖西市にある豊田佐吉翁の記念奨学金、あれをさらに拡充といいますか、制度としては給付型の奨学金でありますので、それをさらに上澄

みなり、さらに拡充をして、もっともっと教育を受けたい、そういった制度を活用したいと考えている生徒さんに対しての金額等々も含めて、もっと手厚く奨学金という形で給付ができないかと。そしてそれは結果的に湖西市のために貢献をいただくという条件のもとで給付すると。もしくは返済の免除、これは多分国のほうでも同じような、今JASSO、日本学生支援機構のほうが考えられてる制度と似通っているかもしれませんけれども、給付型イコール返済の免除を、条件をクリアすれば返済の免除という形での制度設計ができないかということは今考えているところでございます。

2点目のコーちゃんバス、これは渡辺議員もおっしゃるとおり、本当に担当の方、御苦労されながら、いろんな市民の皆様がたくさん要望をお聞きになって考えていただいている、御苦労されているということは重々認識をさせていただいております。その上でやはりこの湖西市としてどういったコーちゃんバスを含めた公共交通のあり方が望ましいかということは、やはり今までのような路線バスという形が望ましいのか、もっともっと公共交通、そして新たな形があるのではないかと。公約等々でも例えばデマンド型とか、いろんな、言い方はともかく、この路線バスをやっていたのに対して、財源とも相談をしながらどういったやり方が望ましいか、そして例えばバスだけでなくタクシーの活用だとか、いろんな方策を検討した上で最も湖西市にとっていい方策、もしくは湖西市の中でも地域によって望ましい方策が異なっているかもしれませんので、そういったことはしっかりと実態を踏まえて研究・分析した上で、よりよいコーちゃんバス、公共交通の構築を行ってきたいというふうに考えているところでございます。

3番目の工業用地の確保に関しましては、これも渡辺議員おっしゃるとおり需要があるということは私もいろんなところで企業の方々からお話を伺っているところです。今も例えば浜名湖西岸のような開発整備を進めているところでございますけれども、そういったところも含めて、しっかりと工業用地、確保をして、湖西市内の企業の方々、さらには湖西市

外から湖西市内に移転を、企業がですね、していた  
だけのような環境整備は着実に進めてまいりたい。  
当然、企業の設備投資の計画等々もあると思います  
ので、そこはしっかりと企業のニーズを踏まえた上  
で、市としてもできる限りの整備を行っていきたく  
いうふうに考えているところでございます。

最後の農水産物のブランド化、これも先ほどのほ  
かの議員の質疑答弁と少し重複するかもしれませんが  
けれども、やはり湖西市ならではの特産品であった  
り、名産品をPR、アピールしていく。そして湖西  
市の農水産業の発展につなげていく。これは非常に  
重要なことだと思っております。これももちろん市  
役所、行政だけではなくて、先ほど答弁申し上げた  
とおりオール湖西で商工会の方々であるとか、JC  
の方々、観光協会、さまざまな企業や農家の方々含  
めて、関係者の方々と議論を重ねながら、そして先  
ほど楠議員等々からもお話のありました勉強会なの  
か協議会なのか、どういった場がふさわしいのか、  
そういったことも含めて望ましい場において検討し  
ていく。そしてやはり湖西市が元気になる、活気  
のある、そしてこういったブランドが向上していく。  
そして重要なのは市民の皆様が豊かに生活できる  
ということだと思っておりますので、その実現に向  
けた方策を考えていきたいというふうに考えてお  
ります。以上です。

○議長（二橋益良） 渡辺 貢君。

○7番（渡辺 貢） 一つ一つ、御丁寧に御答弁  
いただきましてありがとうございます。

コーちゃんバスについては、私の住む白須賀の場  
合は、乗る人もそんなに多くないけども非常に不便  
だというような声をいつも聞かされておまして、  
市長おっしゃったようにデマンド方式というのを考  
えてみていただけないかなというような要望もして  
るんですけども、メリットあり、デメリットもある  
ということで、なかなか悩み深いものありますけれ  
ども、いずれにしてもこれから鋭意検討・指示をし  
ていただきまして、よりよい方向に進めていただ  
けたらと思います。

何しろ市長就任以来、なかなかハードなお仕事を  
されておると思いますが、家庭サービスもま

まならないような、かなり厳しい日常生活かと思  
いますけれども、御苦労いろいろあるかと思いま  
すけれども、ぜひ頑張ってください、湖西市のた  
めに努力をしていただきたいと思っております。あ  
りありがとうございました。終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、7番 渡辺 貢君  
の一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 次に10番 竹内祐子さん  
の発言を許します。それでは10番 竹内祐子さん。

〔10番 竹内祐子登壇〕

○10番（竹内祐子） 10番 竹内祐子です。市長  
の所信表明について質問いたします。

影山新市長が今まで経験が生かされる市政運営  
を期待して質問させていただきます。所信表明に  
当たり、総花的な部分がたくさんあって、公約を  
実現するには大変だなという思いがいたしました。

私の質問の目的は、少子高齢社会の中で財政  
の健全を目指してやはり未来に輝く湖西市を構  
築していくための施策について確認したいとい  
う思いでやります。今までやはりリーマンショ  
ックとかいろいろなことがあって、湖西市も大  
変財政面については苦勞してきました。そして  
財調も結構使って、大丈夫かなという部分もあ  
ったりとかしましたが、少しずつまた持ち直して  
きてるところでありますので、やはりそういう  
こともしっかりと認識されて、これからの市政  
を担っていただきたいという思いで質問いた  
します。

最初の、皆さんこれやっていますが、保育の  
受け皿整備について、任期4年の具体的な計  
画と国などの補助金を活用されてやっていく  
お考えはないかということをお伺いします。  
お願いします。

○議長（二橋益良） 市長。登壇して答弁  
をお願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

保育の受け皿整備に関しましては、先ほども  
少し答弁の中で触れさせていただきましたけれど  
も、やはり現在ある子ども・子育て支援事業  
計画というのがございますので、そちらに基  
づきまして施設の整

備、それから延長保育や一時預かり保育事業等々、やはり多くのさまざまなニーズへ対応する事業展開を考えているところでございます。

任期4年の具体的な計画ということでございましたけれども、やはり現在進行形で教育委員会のほうでも小・中学校も含めた教育や保育の施設の中長期の再配置計画の策定を進めていただいておりますので、それに従ってやっていきたいというふうに思いますけれども、やはりその中でも喫緊の課題となっております先ほども申し上げました岡崎幼稚園の耐震化工事、これはすごく重要だと、喫緊の課題だというふうに認識をしておりますので、これに合わせたこども園化、そして新居幼稚園でのこども園化、これをあわせまして早期に実現をいたしまして、やはり保育の受け皿整備、入りたい保育園、しっかり通えと、お父さん、お母さん方の要望にお応えできるような保育の受け皿整備ということを具体的に進めていきたいというふうに考えているところです。

さらにもう一つの国等の補助の活用ですけれども、これはやはり今の安倍政権下での例えば待機児童解消の加速化プランであるとか、待機児童解消に向けての緊急的に対応する施策について等々、やはり国が続けざまに保育の受け皿拡大のために取り組んでいるところです。

私も国の財務省に勤めているときに、待機児童解消加速化プランなんかは具体的に国有地の活用をして保育所をふやすとということを実際にやって、保育の受け皿拡大を行ってきておりました。やはりそういったことも経験を生かして、このような中で保育に対するやはり環境ですとかニーズですとか課題、こういったものを各自治体それぞれ異なるということはあるかと思っておりますけれども、そのニーズの中でこの湖西市保育の受け皿拡大に向けての事業の効果や課題についての検証を行っていく。そして民間の事業者とも連携をしながら受け皿確保につながるような補助メニュー、そういったものを引き続き国等の補助メニューの活用を積極的に努めてまいりたいというふうに考えております。

かなり国も積極的にやっておりますので、湖西市としても補助メニュー、活用できるものはしっかりと活

用をして、この湖西市の保育の受け皿拡大に努めていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ただいまの御答弁で、子ども・子育て支援事業計画の中でやっていくという御答弁でした。そしてあの事業計画の中見ても、28年度はあの計画の中でいくと、特定地域型保育事業を入れれば、本来だったら、この20年度にも20人ぐらいの入所待ちという人たちがなくなるということになっていたんですけども、なかなか特定地域型保育事業という参入はありません。そういうことの中で多分岡崎幼稚園の耐震とかいろいろなことがあって、こども園化のほうの方向性に向いて、もちろん国もそれを進めているので、そういう方向転換をしてきてると私は認識しているんです。

国のほうでも今すごく企業主導型保育事業を推進して、この西部地区、静岡県内でも何事業所がその保育事業を進めるようになっていて、その中で課題になっているのは、ゼロから2歳児しか見れないので、その後の保育のそれはどうするかという課題があるんですけども、湖西市も今、大森といいますか、あっちのほうとか新所原方面にはすごく宅地造成もされていて、多分向こうにすごく人口もふえてくると思うんですね。そうなるときに、行政だけでやっていくのも大変な部分もあるもんですから、企業さんとのそういう連携みたいなものもやっていく必要もあると思うんです。企業方にすれば、その企業に、裁量に合わせて企業の好きなようにそういうものがしむけていけるので、働く人はすごく働きやすい環境になるし、雇用主もすごく使いやすくなってくると思うんです。そのときに、市は何するのという課題になってくると思うんですけど、そういうふうに企業さんと市も連携し合って、子育て環境をよくしていくよというような方向性で、例えば企業に免税みたいな税のそういうものを見てあげるとかというふうに、ちょっと何かインセンティブを与えれば、企業さんも協力してくれるのではないのかなというふうに私は考えているんです。そういうところは市長はどう考えますか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今、竹内議員おっしゃるとおり、やはり企業との  
うか、事業所内保育所のような想定だと思っ  
すけれども、そういったものをやはり国として  
積極的に取り入れて、補助メニュー等々も用意  
いただいているところと認識しておりますし、湖  
市内もやはり議員御案内のとおりたくさん  
ありますので、そういったものを取り入れら  
れる余地は多くあるんだというふうに考  
えております。

そしてその企業がどういった形  
で取り入れたいのか、そういったニーズ  
を踏まえながら、先ほどのやはり働  
いてる方々、働いているお父さんや  
お母さん方がそこに安心して預けら  
れるような保育所、もしくはこども  
園なのか、そういった保育施設です  
ね、そういった保育の受け皿をどう  
いったところで、どういった形で  
整備するのが一番いいのかという  
のは、まさに今おっしゃったよう  
な企業との連携、企業の話をよく  
聞いて、そこに行政としてもどう  
いった形が望ましいのか、もしく  
は行政でどこまでやるべきなの  
か、そういったところはもちろ  
ん財源とも相談ですけれども、  
国の補助メニュー等々も活用し  
ながら取り組んでまいりたいと思  
っています。

やはり市全体でそういった待機  
児童しかり、安心して子供を預  
けても安心して働けるような環  
境をつくるということが大事です  
ので、今ある保育所もしくはこ  
ども園化、そういった方向を進  
めると同時に企業との連携はし  
っかりと行っていきたいという  
ふうに考えております。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 本当に行政  
だけでやっていこうと思うとな  
かなか無理がかかりますので、  
やはりこれからは全て財政の面  
でもそうですが、官民連携でや  
っていかないと住みやすいまち  
にはなっていないと思います。

保育の受け皿のことでやたらと  
今ゼロから2歳とか小さな子供、  
幼児のことばかりの話になって  
いますが、やはりこのまちで働  
き続けるためには、学童保育の  
整備も今喫緊の課題となってい  
ますので、そのところも、今  
まで余り行政がそのところに  
力内

的に横断的な連携が、してやっ  
ていきますよという割にはとれ  
ていない現状があります。そこ  
のところを私はしっかりと連携  
して子育て支援計画の中にも  
5年間で整備するというふう  
になっているので、そこをも  
う少し重点を入れてやって  
いただきたいと思います。市  
長はどのように裁量を振る  
ってくれるのかなという  
ところは私は伺いたいです。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを  
申し上げます。

今議員御指摘のあった学童  
につきましても、やはりこれ  
は、保育というかは別にして、  
やはり考え方は全く同じです  
し、多分小1の壁といったよ  
うなお話は各種報道であつた  
り、これは多分湖西市に限ら  
ずいろいろところで課題とし  
て取り上げられてるという  
ふうに認識しております。い  
わゆる小1の壁の克服とい  
ったことに関して、国とし  
ても支援メニューは今待機  
児童解消とあわせて、最近  
になってメニューを用意し  
ているというふうな厚労省  
のほうでやっているという  
ことは認識しております  
ので、そういったメニュー  
も活用しながら、やはり  
湖西市としても学童の  
受け皿確保、例えば学校  
の空き教室の活用です  
とか、なかなか空き  
教室がなくて、かなり  
児童・生徒数が多い  
ところもあるという  
ふうに聞いてます  
けれども、そういった  
ところでどう  
いった施設が  
望ましいかとい  
うことも含  
めて、やはり  
学童保育に  
関しても切  
れ目なく  
そういった  
保育とい  
うか、受け  
皿が確保  
できるよ  
うな、そ  
して支  
援がで  
きるよ  
うな財  
政、それ  
は竹内  
議員お  
っしゃ  
るとお  
り、こ  
の行政  
だけ  
ではな  
くて、  
やは  
り地  
域、そ  
して  
学校、  
いろ  
んな  
関係  
者が  
一体  
とな  
って  
進め  
るこ  
とが  
必要  
だと  
思っ  
てま  
すの  
で、  
それ  
こそ  
そ  
うい  
った  
もの  
も対  
話や  
連  
携を  
し  
っ  
か  
り  
と  
結  
び  
つ  
き  
を  
強  
め  
て  
ま  
い  
り  
た  
い  
と  
考  
え  
て  
お  
り  
ま  
す。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 今質問  
したようなことを、これから  
いろいろ対話していくという  
中に、やはり参加者の顔を  
見ながら、やはり市長みず  
からが意見を求めるような  
形で生の声を聞いていただ  
きたいと私は思いますので、  
そのことを忘れないでやっ  
てください。お願いします。



では次行きます。

○議長（二橋益良） 時間になりましたので、とりあえず質問の途中ではございますが、途中でちょっと切りたいと思いますがよろしいですか。

○10番（竹内祐子） はい。

○議長（二橋益良） それではここで暫時休憩いたします。再開は2時15分といたします。

午後2時04分 休憩

午後2時15分 再開

○議長（二橋益良） それでは休憩を解いて会議を再開いたします。

ただいま竹内祐子さんの一般質問の途中でございました。次の質問から始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○10番（竹内祐子） 2番目の質問に移ります。

子ども医療費の無料化を進められたい理由とその財源の確保をどのように考えられているのかをお伺いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

子ども医療費の無料化の御質問ですけれども、無料化を進めたい理由といたしましては、やはり子育ての世帯の経済的な負担の軽減を図るということで、結果としてはやはり湖西市に住んで子育てがしたいと思っていただく。そしてこの人口減少を食い止めるといこととともに、このまちで住みやすく、そして人が、人材が育つまちにしたいという思いからでございます。

その財源につきましてですけれども、やはり今も現在進行形で平成29年度、来年度の予算を編成中でありまして、市の事業の全体のスクラップ・アンド・ビルドを行う中で財源を確保していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 私は市長の公約を別にとめるつもりもないんですけれども、やはりさっきも申し上げたように財源はどうするのかなという問題がありまして、私はもう新市長がやりたいものはどんどんやってもらってもいいけれども、前市長がやって

いたものに関してはやはり速やかにぱっとやめて、そのところを財源確保に回してくれば何も言うつもりはありませんでしたが、そうだったんですけど、先ほど1年間様子を、子育て支援手当と就園助成金については1年間そのものの事業効果を見ながら判断していきたいという御答弁だったじゃありませんか。ですので、それはそれでその中でしっかりと市長が判断していただいて、30年度の予算を期待したいなと思ってます。

やはり苦しいかもしれないけれども、影山カラーを出したいのなら、やはり切るところは切つていかないと、なかなか市長に期待する市民の声が届きにくくなってしまいますので、そのところからこの市民の対話の中で、御自分の中でそこを処理していただいて、慎重に行動していただきたいなと思っております。

わかりました。では3番目行きます。

湖西病院の体制整備について、病院の繰出金が一般会計を圧迫していますが、経営改善の具体的な施策をお伺いします。また、湖西病院をどのように市民の医療の拠点にするのかというお考えを伺いたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） 湖西病院に関しましてお答え申し上げます。

やはりさきにもお答えした内容もありますので、多少重複になるかもしれませんが、湖西病院の経営改善のためには、まずは医師・看護師、しっかりと確保をしていく。そして今あいている東病棟の早期に再開をする。そして医業の収益を増加していくということが、やはり一般会計からの、今竹内議員から御指摘いただきました市の財政の圧迫要因にもなっているということは否めないと思いますので、そういった本業、医師・看護師をしっかりと確保していく。そして医業収益を伸ばしていくこと。これがやはり、もう王道というか、本業のことで重要ではないかというふうに思っております。そのための努力をしっかりと私としてもし続けていきたいというふうに考えているところです。

そして、市民の医療の拠点ということですから

も、これも御案内のとおりで、やはり市民の医療の拠点、地域の中核の病院としまして、この市民の健康保持に必要な機能、入院医療でありますとか専門外来としての医療、これはしっかりと提供し続けていきたいというふうに考えておりますので、今の財政ですね、こういった負担も考えながらやはり医師の確保、本業で収益を上げていくことをしっかりと方策をとっていきたいと考えております。

さらにはまた今度湖西市以外の例えば浜松市や豊橋市といったような市外の高度な医療機関との連携を図ることのできる施設としての役割ですとか、逆に市内にも湖西病院以外の診療所等々もありますので、そういったところと連携をして、市民の皆様の健康を守る、そして安心安全な生活を提供すると。暮らすことができる。そういった身近な医療機関としての湖西病院の役割はこれからも続けていきたいというふうに考えておりますので、そういった努力はし続けていきたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） 市長も御存じかと思いますが、湖西病院は急性期医療で病院をやってきたいというお考えで、療養型のことも断念いたしました。自分もこういう議員になってから、行政視察で先進地の病院に視察に行ったときに、世羅中央病院というところに行ったんですが、そこところは急性期の医療へ力を入れていきたいという方針だったんです。でもその急性期の医療に力を入れるだけでは病院はやっていけないということで、急性期から慢性期、在宅をしているので、病院に来てくれる患者さんもふえるし、在宅への移行もスムーズにやってやるというお話を伺って、なるほどなと思って帰ってきました。

これは寺田院長も一緒に行ったところなのでよく御存じかと思いますが。ですので、急性期だけ特化してやりますよと言っても、なかなか患者さんがふえてこないと思うんです。医者数を幾ら置きます、置きますとずっと今言ってくださってるんですけど、お医者さん一人入れて1億円売り上げだか収益が上がるとよく言われてますが、お医者様1億円上がるというてもそのお医者様に使う経費だっただけかかって

くるので、じゃあ純利益どれだけあるのという話にもなってくると思うんです。幾らいい医者を入れたとしても、やはり病院の体制がしっかりと安心して流れていけるような体制になっていなければ、患者さんというのはふえてこないと思うんです。

本当にうちのところは豊橋と浜松に挟まってるんで、患者さんはいろんな病院を選ぶこともできて、ましてや地域医療構想の中で湖西市は浜松市と2つの市で構成されていて、その中で医療も介護も使えるようになっているので、湖西病院が生き残っていく、私も今聞いてますけど、経営改善のことなんですが、全部適用するようになりました、経営権とかそういうのも病院側に移して、やりやすいようになってきましたと言っても、なかなか病院の医者が一人ふえた、けどそんなに収益も上がってこないという、そういう何かもう五、六年続いているのかな、私のなつた中でも。ですので、やはり経営改善を考えるということが私は一番のポイントだと思うんです。

このまま本当に自治体病院としてやっていけるのかどうか。やり方も今は指定管理制度とか、やはり研修に行くと、指定管理のやり方があるよとか、独立行政法人だよとか、いろんなやり方を講師の先生は言ってくれているので、自分たちのところでもどんな方法がいいのか、本当にこの病院を守っていかなければいけないという、湖西市全体のそういう声が沸き起こってこなければ、なかなか自治体病院を存続するということは困難なことだと思うんですね。

ですので、やはり私たちにも責任があると思いますが、じゃあ自治体病院に10億円繰り出ししているんだから、もっと市民の皆様どうしたらこの病院がもっていけますかねというの、議員サイドでも提案して、もっていかなければいけないと思いますけど、ただ医者をふやすとか、環境をよくするとかということだけでは、私はやっていけない。浜松医大にお願いしますという一点張りも、もう私は通用しないと思うんです。そうすると、影山市長は、じゃあどんなことを考えられるのかなというのを私は期待して出してるんですけども、ほかに何か考える手はありますか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

湖西病院の問題、本当に私も就任してわずかですけれども、本当にその前からも聞いたり勉強したりしている中で難しいし、なかなか、じゃあ早急に取り組んだとしても、やはり自分たちが湖西市としてこれだけのことをやった、例えば予算です、これだけ用意すればいいというものでもないものから、そこはなかなか今、じゃあこうしようというのを、済みません、具体的な目に見えるこれだということは示せないのが現状ではありますけれども、やはり目的はこの湖西市民の方々がやはり安心して、この湖西の地域として医療が受けられるということが最重要な課題だと思っておりますので、それと今竹内議員の御指摘ありました在宅であったり、そういったものとの連携ももちろんそうですし、高度医療との連携もそうですけれども、湖西市内で安心ができるような病院というのはどういったものか。今は自治体病院としてしっかり湖西市立の湖西病院として行っていますので、そういった形態のもとでどういったことがこの湖西市として今後も行っていくのか。

おっしゃるとおり一般会計からの財源の繰り入れだとか、医師の確保、看護師の確保、どれだけの医療行為ができるのか、というのは、今は浜松医大からの派遣がやはりほとんど、お願いして派遣をいただいている状況ですので、そちらにお願いに行くということをまず最優先に考えて、あとはさらにその先のことについては、それをまず実現可能性を含めてさまざまな方策は考えていきたいと思っておりますけれども、まず現状できることから、自分ができる限りのことはもちろんやっていきたいですし、ぜひそういった市議の皆様も含めて、お知恵ですとか、御知見、御支援をおかりできればというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 竹内祐子さん。

○10番（竹内祐子） ありがとうございます。これは大変難しい課題でありますので、やはりどこへ行ってもこのことについても市民としっかりと対話を交えてほしいなという思いがいたします。

4番目のところの対話と行動のところ、もういっぱい皆さんにお話しされているので、市長の取り組みはよくわかりました。私はどの先進地に視察に行っても、やはり首長がどんなまちづくりを目指したいか、実現に向けてどうしたいかということをややはり明確な方針で示しているところがほとんどで、その中でやはり職員さんがしっかりとついていています。

私、市長に対しては市民の対話も本当に必要なんですけど、まずここにいる職員さん、職員さんとしてしっかりと対話をしてほしい。もう新米からベテランまで、もう時間、本当に5分でもいいから、毎日順番にやって、この3カ月なら3カ月の間にいろいろ職員さんと、市長と話をしたことがないというような職員がいないようにしてほしいと思います。常に職員さんと話をする時間を持ってもらって、その中から今現場にいる職員さんが、今こういう課題があるんですよとか、こういうふうに市民から言われてよかったですよとかという生の声を聞いてもらって、やはり市長と職員がしっかりと手をつなぎ合っていていただかないと、影山政権はうまくいかないと思うんですね。ですので、私は市長さんの市民との対話もすごく有効な手段だと思いますけど、まず職員さんと仲よくやっていただきたいなと思います。以上で私の質問を終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、10番 竹内祐子さんの一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 続きまして12番 豊田一仁君の発言を許します。それでは12番 豊田一仁君。

〔12番 豊田一仁登壇〕

○12番（豊田一仁） 12番 豊田です。影山市長におかれましては、初の本会議で長時間にわたるお一人での一般質問対応、本当にお疲れだと思います。あと二人になりましたので、もうしばらくおつき合いたいと思いますし、また理事の皆様方もひたすら忍耐の何時間かを過ごしていただいて、大変だったなと思いますけども、もうちょっとよろしく願いいたします。

私は、市長の所信表明に関しまして、2つの範疇

から質問をさせていただきます。まだ影山新市長、まさに行政情報のインプット、入力段階で、アウトプットを求めるのは時期尚早かなという気持ちは十分しておるんですけども、なかなか限られた質問の機会でございますので、あえて聞かせていただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

まず最初の質問は、市街化区域と市街化調整区域の線引き、見直しについてであります。この問題は、市議会、私どもの建設環境委員会におきましても本年度のテーマとしておるもので、現状の湖西市の持つ人口減少や既存集落の維持持続の課題解消のためにぜひとも取り組まなくてはならない課題であると理解しております。

しかしながら、線引きに関しましては平成13年の法改正により、見直しや廃止が可能となっておりますが、その制度施行の権限は県にあり、本市として独自に見直しや廃止を実行することはできないという状況にあります。

特に、これまで本市においては市街化調整区域における宅地確保の解決策を指定大規模既存集落制度の活用と地区計画を利用しようとしてきており、市の基本方針であります新総合計画、さらには都市計画マスタープランにおきましても、線引きの見直しについては一言も触れてはいないという実態があります。これは線引きの見直しに対しては、市としての行政執行上の環境条件が整っていないことを示しております。

さらに人口減少社会を迎え、国や県の基本方針がコンパクトシティの実現を目指す中、それに逆行する側面を持つ線引きの見直しにはかなりの抵抗が推測され、実現には多大な労力と時間が必要になると思われます。

この問題の勉強のために視察させていただきました線引き廃止の先進事例であります岡山県笠岡市、京都府綾部市ともに、最もこの線引き廃止の大きな推進力は、選挙公約として市民にアピールし当選した市長の実行力であったというふうに伺いました。さきに述べました厳しい状況の中で、さまざまな課題を超えて、線引きの見直しを遂行するには、行政トップとしての大きな推進力を発揮していただくこ

とが重要であると考え、その考え方で、強いて言えば覚悟を伺いたいと存じます。

まず言葉の確認になりますが、市長の示す線引きの見直しとは、線引きのし直し、変更を意味するのか、制度の廃止を意味するのかを確認させていただきます。お願いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。登壇して答弁お願いします。

〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今の豊田議員からの御質問に関しまして、線引きの見直しに関しましてですけれども、私が考えている線引きの見直しとしましては、この湖西市の現状からも市街化区域と調整区域の範囲の見直しをする、市街化区域の区域の拡大を行おうとするものでございまして、いわゆる線引きのし直しということの意味しているということでございます。

現在、今豊田議員からも御指摘ございましたとおり、建設環境委員会におかれまして線引きの見直しに関しまして調査・研究をされているというふうに承知をしておりますので、それも参考にさせていただきながら、やはりこの湖西市にとって効果的な手法についてを十分検討しまして、そして湖西市一丸となって、この実現に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

今、覚悟とか実行力というお話もございましたので、やはり目的はこの湖西市の人口減少を食い止めて、活気あるまちをつくるための手段、大切な手段であるというふうに認識をしております。その実現に向けて、ぜひ御支援、そして御知見を賜ればというふうに考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君、どうですか。

○12番（豊田一仁） ありがとうございます。正直、どこまでの御返事がいただけるのかなと思っておりまして、できれば廃止まで含めた見直しなんだという返事を期待しておったんですけども、とりあえず線の引き直しというところまでということで、現状としては妥当なところかなというふうに受け取らざるを得ないのかなとも思います。

しかし、なかなか線の引き直しという作業も大き

な課題、特に既得権者の権利の崩壊というおかし  
いんですけど、放棄を求める部分も出てくる側面が  
ありますので、かなり難しい要素は含んでおるなど  
いうふうに感じております。我々もまだまだ勉強中  
で、ただ、これをやらなくてはいけないというのは、  
委員相互の共通認識になっております。及ばぬとこ  
ろとは思いますが、お力のかすというのはおかし  
いんですけど、力合わせてこの問題に対応できれ  
ばと思います。

2番目の質問に入らせてもらいます。

所信表明で挙げられた5つの旗の各項目は、多額  
の予算処置を必要とするものが並んでおりまして、  
足かせの多い事業がうたわれておるなどという印象を  
持っております。そこへ来ますと、この今テーマと  
させていただいております案件は、創意と熱意。膨  
大なる創意と膨大なる熱意になるのかもしれませんが、  
実現できる数少ない事業の一つだというふう  
に受けとめております。

申しましたように、市には権限のない非常に交渉  
相手があって不確定要素の多い目標にはなりません。  
それだけに市長のお考えが重要な要素になってまい  
ります。この案件の優先順位、5つの旗の中でさら  
に幾つかのテーマがありました。その中における優  
先順位というのはどの辺に位置しておられるのか、  
一応お聞かせいただけたらと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今豊田議員、冒頭に御指摘いただいたとおりで  
して、やはり財源を求める、何かの施策を行うた  
めにはよく財源を求めるということをしなければなら  
ないわけですが、こういった、国でもそうでした、  
規制の緩和とか規制の見直しということは財源  
が必要なく、経営だとか企業経営の自由度を上げる  
というようなことで財源なく施策を実行できるとい  
うことでは、重宝されてるといっておかしいです  
けれども、それが実現すればすぐ事業が前に進むこ  
とが多くあったものだと認識しております。

その中でこういった線引きの見直し自体は、やは  
り人口の減少を食い止めて活気あるまちをつくるた  
めには有効な手段の一つであるというふうと考えて

いるところですので、豊田議員の御指摘のとおり、  
実現するためには多大な労力や時間を費やすとい  
うことが必要かもしれませんが、実際に豊田  
議員御案内のとおり笠岡ですとか綾部のようなほか  
の自治体の事例、線引き、これは見直しでなく撤廃  
だったりもするわけですが、そういった見直  
しを行った自治体の事例等々をやはり参考にして、  
具現化する道を研究してまいりたいというふう  
に考えておりますので、自分の公約の何番目かとい  
うのはなかなかやはりどれもこれも本当に、先ほどのほ  
かの議員からの質問にあったとおり、全ての公約を  
実現するのが理想でありますので、そこは何番目だ  
というような明確な位置づけということではありま  
せん、やはり実行していくための最優先課題の一  
つということで実現のために、それは全力を挙げて  
取り組んでまいりたいというふうと考えているとこ  
ろでございます。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 確かにどう順番をつけるのか  
というのは非常に大きな難しい問題だと思います。  
ただ、市の置かれた環境、状況を考えますと、決し  
て後に送ることのできない問題だというふうに認識  
しておりますので、ぜひ早い取り組み、そして結論  
出しということを期待したいと存じます。

では次のテーマに移らせていただきます。

5つの旗の実現に向け職員に求めるものという  
テーマを上げさせていただきました。

市長の目指す5つの旗の推進は、一人市長の行動  
によってのみ実現されるものではなく、市長の思い  
を具現化する多くの職員の活動により実現されるも  
のだと考えます。

この春以降、湖西市内のさまざまな地域を回られ、  
市民の皆さんの声を聞き、5つの旗の構想をまとめ  
ていく過程において、職員の皆さんにはこのよう  
であってほしいと思われた点も多々あったのではない  
かと推測いたします。

市の置かれた状況は、予算を使って建物をつくり、  
予算を使って市民サービスを提供するということが  
できた環境から、限られた予算でいかに市民生活の  
維持・向上を目指し、複雑多様化する生活様式の中

でいかに市民の負託に応えるかが求められるように変化してきております。

このような中、市長として5つの旗の実現に向け、職員に求められるもの、求めようとしているものについてお聞きしたいと存じます。

冒頭申しましたように、就任間もない今、このような質問はそぐわないのかもしれませんが。先ほどの同僚議員が行いましたように指摘・要望という形で提案させていただくのも一つの方法かなと思うんですけども、今市長が就任直後の新鮮な目で見て感じられた事柄から、今後どのように対応していこうと考えておられるのか、お話しただけのものがあれば伺った上で、我々も理解し協力したいと思いますし、職員諸兄にも認識しておいていただければと思ってあえて聞かせていただきます。

職員の資質向上・意識変化の必要性は感じておられますか。非常に素朴であり、かつ受け取り方によっては失礼な質問かもしれませんが、まずこれからお聞かせいただきたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

豊田議員おっしゃるとおり、まだ就任して私も日が浅いものですから、この職員の皆さんに対する拙速は評価というものは控えさせていただきたいし、まだそこまで私も全員としっかりと対話したというところまではなかなか時間の制約もあって至っておりませんので、そこの評価等々は控えさせていただきますけれども、ただ、やはり日々感じているのは、私がなので日が浅いので、職員の方々に質問をしたりですとか指示をしたことに関しては、非常に迅速に対応いただいております。そこは本当にこれから湖西市のために一緒に頑張っていくという姿勢だし、その意気込みのあらわれであるというふうに、すごくそこはありがたいというふうに考えて評価しているところです。

所信や、もしくは初登庁時の御挨拶でも述べさせていただきましたけれども、やはり職員の皆様一人一人でも自分の仕事がやはり市民の思いを受けとめる、そして何が湖西市のためにしているのか、本当に自分の仕事が市民のほうを向いて、市民のため

になっているのかということのを再認識、そして常に初心を忘れずにやっていただくということをお願いしておりますので、そういったことを常に考えて、先ほど豊田議員おっしゃった資質の向上とか意識の変化、そういったものはそういった自分たちの心がけの中から自然発生的に起こってくると思いますので、そういったことを職員の皆様にも努めていただきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） 今の答弁をお聞きしますと、2番目に用意させていただいたとるべき対策云々という質問は言わずもがなかなとは存じますが、もし御用意していただいているのであればお聞きしたいと思います。とるべき対策はイメージされておられますか。また、それはどのようなものでしょうか。お願いいたします。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

2番目の質問まで考えて今申し上げたわけではなかったんですけども、やはり今の最初の質問の中で、やはりそういったことが必要かなと思ってお話をさせていただいたわけでごさいます、具体的に何か例えば研修だとか、こういったものが必要だということは今は想定しておりませんが、何が必要でこういったものが実施することが望ましいということであれば取り入れていきたいと思ひますし、まずはそういった姿勢というか、市民に対する心がけ、湖西市政に対する心がけを第一に持っていたければ、それは必然的に、能動的というか、自発的に職員の皆様も初心を忘れずにやっていただけるし、今そうやっていただいているというふうに認識をしております。そこは職員の方々と私も対話しながら実践していくし、今後とも進めていきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 豊田一仁君。

○12番（豊田一仁） ありがとうございます。インプットで忙しい中、実質的な市長業務はこれから展開されていかれるということになるわけですが、大いにこれまでの経験、知見を生かしていただいて、よりよい湖西市政、築いていただけますこと

をお願い申し上げて、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（二橋益良） 以上で、12番 豊田一仁君の一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 最後になりますが、次に1番 福永桂子さんの発言を許します。それでは1番 福永桂子さん。

〔1番 福永桂子登壇〕

○1番（福永桂子） 1番 福永桂子でございます。市長の所信表明に関して、2点質問させていただきます。

一般質問に入る前に、このたび市長選挙において御当選されましたことを心よりお祝い申し上げます。市長、就任おめでとうでございます。これから湖西市のまちづくりに対して働かれていくわけですが、ぜひ市長の持てる力を精いっぱい発揮されて、そして獅子奮迅と申しますか、有権者を初めとする市民の皆様の御期待に沿っていただきたいなということを切に願っております。

それでは、市長の所信表明に関する一般質問に入らせていただきます。

市長は大きく分けて5つの旗を掲げられました。そこでそのうちの4つ目の旗、命を守る防災対策について、質問させていただきます。

質問しようとする背景や経緯ですけれども、湖西市のまちづくりは、まず太平洋沿岸に位置するまちとして、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を機に、失われてしまったその安心と安全を回復して確実なものにしていく必要があります。それが実現するには、津波防災まちづくりの強力な推進にあると考えています。

政府の地震調査委員会は平成25年5月24日に、南海トラフで発生するマグニチュード8以上の大地震の発生確率を今後30年以内で60%から70%だと予測する大地震に関する長期評価を公表いたしました。この長期評価を本当に真剣に受けとめれば、津波防災まちづくりはまさに喫緊の課題と捉えなければなりません。静岡県が発表した南海トラフで発生する大地震による第4次被害想定に対する対処方針を明

示することはもちろんのこと、その上で被害想定に対する対策の工程表及び財源確保の手段をできる限り明らかにすることが市政運営の責務であると思料いたしております。

目的といたしまして、所信表明で示されました市政運営の思いの中で、まちづくりの扇のかなめとなる津波防災まちづくりについて、具体的にわかりやすくお示ししていただきたいと思っております。

これまでももちろん同僚議員の皆様の質問によって、明らかにされた部分もたくさんありますので、簡潔に質問したいと私も思っております。

津波防災まちづくりは、まさに有事対応の政策であります。市長のお考えになる有事対応の基本的な姿勢、原則といいますか、と津波防災まちづくりの主眼について、ちょっとお聞かせいただきたいと思っております。

○議長（二橋益良） 市長。登壇してお願いします。  
〔市長 影山剛士登壇〕

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

福永議員御指摘のとおり、やはり津波防災まちづくりというものは、本当に強力な推進力が必要不可欠なものでありますし、やはり津波の災害におきましては、まずはみずからの行動のみずからの命を守る、そういった避難行動が重要な有事な対応だと考えているところでございます。

また、避難行動自体は市民の方々一人一人が行う最も有効な手段でありますので、避難行動ができるという環境整備を着実にやってまいりたいと思っております。そういったことは夜間を含めた防災訓練等々通じて、市民の方々みずからがまずは避難という意識を常に高く持っていただけのような啓発も進めていきたい。このように考えているところでございます。

さらに申し上げますれば、この津波の防災につきましては静岡モデルの推進検討会の中間報告におきましても、津波を減衰する対策というのが検討され公表されているところでございます。先ほども質疑の中でありましたけれども、こういった課題の解決、例えばハード等々の整備におきましては財源を含めてハードも高いと認識しておりますので、しかしながら市民の安心安全な生活の確保に向けて、

そういった課題の解決のために研究を続けてまいりたいと考えております。以上です。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） ありがとうございます、御答弁。いろいろと財源も含めたハードルが高いとおっしゃっているんですけども、しっかりと頑張っていただきたいなという思いです。

そこで、私は有事対応の原則としましたら、最悪に備えて最善に期待するという事に尽きると思うんですね。もちろん市長も発言されていましたが、静岡県防災会議の第4次地震被害想定、それによったら津波による死者は約4,300人、それから家屋の全壊とか消失、その棟数は約1万5,000ですか、とされています。そういう面において、市長の考えとして、被災しないまちをつくらうとされているのか、それとも災害をこうむる、その災害をこうむるのはどうにもならないので、減災の考え方でまちをつくらうとされているのか、その辺のお考えをちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

非常にそこはやはり今の議員の御質問なり御指摘にもありましたとおり、想定被害の程度にもよりけりなものですから、非常に難しい判断だとは思いますが、もちろん被災をしないことが理想であるし最善の方策であると。それを実現するために対策を行っていくのが理想であるというふうに考えております。

ただしやはりどれくらいの規模の災害が起きるか、津波も含めてですね、もちろん東日本のときにも想定以上の津波が来たり、被害をこうむったということもございますので、もちろん万全の対策をとっていく所存ではありますけれども、万が一それを超えるような津波等々の被害が起こった場合にも、少しでも被害を食いとめる減災対策。そのために今、逃げて、命山や避難タワーに逃げて安心できる。そういったところを整備しているわけでございまして、もちろん最善の、全く被害を受けない方策が最善とは思いますが、それを想定を上回るものに関しましても、少なくとも皆様が安心安全に避難がで

きるような場所、もしくは避難所も含めたハード・ソフトの整備を進めていく減災対策はしっかりと進めていきたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 市長の理想と、そして現実とのほざまで悩むという、その思いはわかります。ただ、ぜひ最善に期待して、本当に被災しないまちをつくるということを頭に置いて前進していただきたいと思います。私は思っております。

そして市長も、そして皆さんも御存じだと思いますけれども、岩手県の普代村の防潮堤のことですけれども、未曾有の東日本大震災があったその日、その防潮堤は全ての村人3,000人の命を守りました。そして当時の村長は、明治に15メートルの津波が来たと。そういう言い伝えが頭から離れなかったから、それを実行したんだというふうなお言葉が書いてありました。15メートルはやり過ぎなどの批判もあった中、やはり防潮堤は高さ15.5メートル、そして全長155メートル、また水門は高さ15メートル、全長205メートルを建設いたしました。もちろん、防潮堤は5,800万円、そして水門は35億円を投じております。けれども、60年にチリ地震のその津波を防いだ、万里の長城と言われていた宮古市の防潮堤、それがやはり10メートルの防潮堤であって、波にのまれて数百人の死者を出してしまいました。その辺から考えますと、この普代村の村長のやはり有事に対する決断とその実行力、それがやはりこの普代村の持続可能な地域社会を守ったんだと私は思います。

そういうところで今湖西市は日ヶ崎地区の津波避難タワーですか、また西浜名地区の津波避難施設、それを予定されているわけですが、まだ財源は上がっておりません。そして湖西市の海岸、白須賀海岸などは県のもちろん管理下に置かれているわけですので、県の動きとか、県の財源も含めて、市長が本当に湖西市で推進されようとしている、この命を守る防災対策に、県が間に合っているのかどうか。そのようなあたりを市長はどうお考えになりますか。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。



今のやはりどれぐらいの備えをしておくか。これは非常に本当に岩手の例などもおっしゃったとおり、こういった東日本のときには本当に宮古の万里の長城も含めて、すばらしくそのときの自治体の首長さん初めまちの方々の御英断で、その住民の方々の命が守られたというふうな認識はしております。

湖西市ももちろん、そういったことを、災害はいつ起きるかわかりませんので、先ほどの防潮堤のお話もありましたけれども、そういったものをこれからビジョンを持ってやっていくということは関係部署とも今話を進めておりますし、現実的に今おっしゃった白須賀の海岸線だとか、新居のほうもそうですけれども、湖西市以外の例えば県であるとか、例えば東大の演習林等々もありますので、関係する機関、県も初め関係機関と話をしなければなりません。こういったものが必要でどこまで整備するのが望ましいし必要なのかということは、しっかりと話をし、そしていつ起こるかかわからない災害に備えておくということは必要だと。当然、早急にやらなければならないことの一つだと考えておりますので、財源もちろん必要になりますけれども、そこはスピード感をもってビジョンをつくり、そして実行に移していくということを考えております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） スピード感をもって、ビジョンをもってやっていくというところに、本当に賛同いたします。ぜひ本当に災害に強いまちづくりを推進して行ってください。

それでは次の質問に移ります。人口減少に歯どめをかける地方創生についてです。

背景や経緯ですけれども、湖西市のまちづくりは全国の地方自治体に共通する課題である地方創生をいかになし遂げるか、その対策の具体化にあるものと考えています。地方創生の問題は、人口減少とそれに伴う地域社会の衰退にいかに歯どめをかけるのか、それをどのように実現するのかにかかっていると受けとめています。

私は、地方創生の焦点は、まさに20歳から39歳のいわゆる若年女性の求めるものに対してどのような政策を提示して、彼女たちの心をつかむのかにかか

っていると考えます。

市長が選挙で掲げられました5つの旗は、広義に捉えますと地方創生にかかわるものであると私は思います。それゆえ、市長は地方創生に対する方針を明示されて、それに基づいてその対策を具体的に列挙して、工程表に乗せて財源確保の手段を明らかにすることが肝要と思います。

目的としまして、まちづくりの重要要素である地方創生について、所信表明で示された市政運営の思いを具体的にわかりやすくお示ししていただきたいと思っております。

そこで質問1です。子育て・教育への支援による幸福度日本一のまちの教育への支援メニューについて、どのような政策を提示し、どのような事業を進めていくのか、より具体的にお聞かせください。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

さきの質問等々への多少重複があるかもしれませんが、まず子育てへの支援ということですが、こども医療費の無料化ですとか、給食費、またさらには予防接種費の助成など、そういった支援のメニューをできることから実行に移していきたいというふうに今検討をしているところでございます。

もう一つの教育への支援ですけれども、そちらもまずはやはり学ぶ意欲のある学生の方に対する給付型の奨学金の拡充につきまして、これも検討を今行っているところでございます。こういった子育て・教育の支援に関しまして、いずれの政策につきましてもやはり財源の確保、そして例えば条例だとか制度の創設や設計、改正、場合によってはそういった制度の改廃が必要なところ、さらには関係機関等々との調整を経ねばならないということもありますので、まずはできることから順次、例えば予算措置がどれだけ必要ならこの施策ができるという形で、できるところから取り組んで、そして今後一つ一つ事業の実現に向けて取り組んで、着実に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 本当はもう少し教育のメニュ

一について具体的にお答えをいただきましたかったなという思いなんですけれども、効率的で本当に湖西市に合った制度の創設や設計は、私も本当に賛成いたします。とても大切なことだと思います。

市長は多分子育てと教育を包括して考えて、包括する政策として考えてらっしゃると思うんですけれども、それでよろしいですか。その認識で。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

子育て・教育、やはり何歳から何歳までがというのは、なかなか線引きは難しいところですので、そこは適齢期というか、年齢に合った子育ての支援、もしくは学業なり、学生への支援、または例えば学校制度、そういった小・中学校、高校も含めてかもしれませんけれども、そういった制度設計を市としてもやれるところはやっていきたいし、今の例えば財源をまとめて手当を支給するというものだけでなく、学校の仕組み、例えば学級だとか、先生の配置だとか、そういったことも市としてはできる限りのことをやっていきたいと思っておりますので、そこを包括というかどうかは別にして、何歳のときにこういったものが必要だ、こういった制度であったり、手当が必要だということに関しては、切れ目のないように行っていきたいというふうには思っております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 頑張ってやっていていただきたいなと思います。子育てと教育を包括する政策として、そして事業化していくということは、私はこれから大きなビジョンをもってやっていかなければいけないのではないかなと思っております。

私、これまで議会でいろいろ教育の環境の整備について質問してきました。現在当たり前となっているトイレの洋式化、また暑い夏を快適に過ごして、そして学習意欲をそがないようにという空調設備の更新と導入、また省エネ対策として室内灯のLED化、また学校における子供の長時間の預かり施策など必要ではないかというふうなことを言ってきました。そしてこれらを国や県の各種補助金などを活用したり、民間の事業者との連携などで経済的視点に

立った財源の確保で実施できるのではないかという対案も提示してきました。

当局のお答えは、時間はかかるが順次進んでいる、現時点では考えていないとか、それから各種補助金については積極的に活用していきたいけれども財源の確保がそれ以上は難しいとかいうふうなお答えで、なかなかこういうものが進んでいっていないのが状況です。

市長はこれからの教育の環境整備について、どう考えられているのか。そしてこれまでと同じような考えで行かれるのか、この答弁をされたような考えで行かれるのか、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

ちょっと今までの答弁を一つ一つ精査はまだしておりませんが、少なくとも私の考えとしては、やはり今福永議員おっしゃったような教育環境の整備、先ほどのトイレであるとか、そういったものはやはりこれも時間がどれぐらいかかるか私も一つ一つまではまだ精査してませんが、しっかりとした整備が、教育環境、子供たちが学べる、快適に学べる環境というのは必要だと思っております。ただ、それが、この前の議題にもなりますけれども、防災対策であるとか、ほかの福祉政策との絡みもあって、どれだけの教育予算を確保していくかということはやはり市の事業全体のバランスの中でやっていかなければならないと思っておりますので、ただ人材育成のためにこれだけの教育予算、そして学校の整備ということにはやはり最重要な課題の一つとして、できる限りの人的そして財源の投入をしていきたいというふうには考えております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 人的と財源の投入、ぜひよろしく願いいたします。

あと、再質問のような形ですけども、新しいこの学習指導要領に基づく教育が、今度平成30年度から始まると聞いております。授業の時間数が多分ふえていたり、それから専門的な知識がいる英語教育など入ってくるわけですけども、教職員の多忙化に

これはもう拍車がかかることになろうかと思います。そしてその教職員の負担がやはり子供たちに覆いかぶさっていったり、学力に影響してくると考えられるわけですが、その辺についてはもう既に市長は何か考えたり、どう思っただらっしゃるかというところをお聞きしたいです。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答え申し上げます。

学習指導要領の改訂、これはゆとり教育の反動とか見直しとかいろいろ言われてますけれども、そういった国も含めて何が今のお子さん方、そして小・中学生、高等教育まで含めてですけれども、この子供たちに必要なのかということの見直しの結果だというふうに思ってますので、さらに湖西市として、そういった例えば教員配置、やはりそれが負担が大き過ぎて、おっしゃるとおり子供たちに影響が出てはならないというふうに思っておりますので、湖西市としては何を行うべきなのか。そしてやはり学習指導要領自体は文科省初めとして国の施策でもありますので、そういった教員配置等々は国もしくはその代行である県と、協力・連携をしながら、やはり湖西市の子供たちが、繰り返しですけれども、快適な教育環境、伸び伸びとこのまちで育っていく。そして湖西市としての人材育成がしっかりできるような施策は教育委員会等々、関係者の方々、学校ともしっかりと連携しながらやってまいりたいと考えております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） ありがとうございます。ぜひ早い対応で、もう平成30年度というのはすぐ目の前ですので、よろしくビジョンを立てていってほしいなと思います。

では次、最後の質問です。

地方創生のかなめは人口の減少を食い止めることです。そのために、いかにして若年女性の定住者をふやしていくのか、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（二橋益良） 市長。

○市長（影山剛士） お答えを申し上げます。

今議員御指摘のとおり、人口減少対策、若年女性

の定住者、非常に重要な観点だというふうに認識をしておりますので、いかにして若年女性の定住者をふやしていくか。現実として、この湖西市に実態として例えば住みたくない理由だとか、ほかの市に住んでいる方々に対してほかの市に住む理由といった実態を踏まえて、例えばマイホームですとか、店舗、お店の誘致や整備等々、やはりそういったハードの整備や誘致、子育て支援といったソフト事業というものを充実をしていきたい。そういったものをこれまでもアンケート等々行っているのかもしれませんが、しっかりと実態を見た上で対策を行っていきたい。そういうふうに考えております。

○議長（二橋益良） 福永桂子さん。

○1番（福永桂子） 実態を本当に調べて、事業を充実させたいというお気持ちは本当にありがたく思っております。よろしく願いいたします。

最後になるんですけども、女性の社会進出が足踏みするということ、この状態は地域の経済社会における労働力の不足の問題につながりかねません。そういう意味で、女性が安心して本当に働ける環境を整備することも必要になってくると思うんですね。それは市長自身おっしゃっていると、これまでの答弁で思うんですけども、教育施設を本当に整備して、そして子供たちに快適な学校生活を保障して、そして子育てしやすい、そういうふうな環境を整え、若年女性にとって本当に魅力的な育児・教育・就労の政策メニューをお願いしたいなとは思っております。もちろん、子育て世代である若年女性の市外への流出を防いで、市外からの流入を促進していく。そういう湖西市であってほしいと。そして湖西市の人口を維持していただきたいと。影山市長ならではの本当に市政運営に頑張っていただきたいなと思います。これで、私の一般質問は終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、1番 福永桂子さんの一般質問を終わります。

これをもちまして、本日予定しておりました一般質問を終わります。

○議長（二橋益良） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

ここでお諮りいたします。あす12月27日は休会とし、次回の会議は平成29年1月6日といたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（二橋益良） 異議ありませんので、そのように決定いたしました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

午後3時15分 散会

---